

【科目】 総合基礎Ⅱ 【総合基礎Ⅱ（医用英語Ⅰ）】

【基本情報】

配当年次	2 学年	担当教員	平良 達夫	
単位数	2 単位		(たいら たつお)	
開講学期	前期	授業形態・回数	講義	15 回

【授業情報】

授業概要	初歩的なオーラル英語から始めて、教科書の内容を材料に外国人の患者とコミュニケーションがとれるようリスニング、スピーキングの訓練をする。 時折英語の文献にも触れ、高度な英文に接する機会も維持する。
授業の一般目標 (GIO)	医療の現場でも英語を使って仕事ができることを目指す。また、医療に関する最新の新聞記事などを独力で読める力を伸ばす。

【担当教員から】

教科書	
参考書	
成績評価基準	定期試験：シラバスで明示した到達目標を達成しているかを評価する。
成績評価方法	成績評価の基準（評価割合） 期末(到達目標達成確認)試験成績-----95% （課題等を行わなかった場合は100%） 課題等-----5%（課題等を行った場合の加算割合）
履修の条件 留意点	期末(到達目標達成確認)試験、課題の評価を合計して60%以上で履修とする。 この科目は基礎分野・科学的思考の基盤人間と生活・医用英語Ⅰの単位として認定されます。なお、本科目の定期試験受験の為には、授業の70%以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。
担当教員	★授業時間外に必要な学習内容 知っている英単語でも、ナチュラルスピードで話されると耳でキャッチできないことが多い。そのため、普段からできるだけ英語を聞いて理解する訓練をしてほしい。 また、授業で扱う医療に関する英語の語彙はすべて聞き取れてさらに使えるよう練習してほしい。
オフィスアワー	授業開講日の12:45~13:00 3F教員室



【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SBOs)	講義形態
前期	1	英語の4技能の基本的な確認、演習 1	<p>オーラル英語を聞き取る上での基本を学び、専門に関わる英語を聞いて理解し、さらには使えることを目指す。また、専門に関わる語彙、表現を読んで理解できるようにする。</p>	講義
	2	英語の4技能の基本的な確認、演習 2		講義
	3	英語の4技能の基本的な確認、演習 3		講義
	4	英語の4技能の基本的な確認、演習 4		講義
	5	各部の名称から始まる施術の前段階の英語 1		講義
	6	各部の名称から始まる施術の前段階の英語 2		講義
	7	各部の名称から始まる施術の前段階の英語 3		講義
	8	各部の名称から始まる施術の前段階の英語 4		講義
	9	具体的な症状についての英語による対応 1		講義
	10	具体的な症状についての英語による対応 2		講義
	11	具体的な症状についての英語による対応 3		講義
	12	具体的な症状についての英語による対応 4		講義
	13	具体的な症状についての英語による対応 5		講義
	14	期末(到達目標達成確認)試験		講義/試験
	15	前期試験の解説、復習		講義

【基本情報】

配当年次	2 学年	担当教員	平良 達夫	
単位数	2 単位		(たいら たつお)	
開講学期	後期	授業形態・回数	講義	15 回

【授業情報】

授業概要	教科書の内容を材料に外国人の患者とコミュニケーションがとれるようリスニング、スピーキングの訓練をする。 時折英語の文献にも触れ、高度な英文に接する機会も維持する。
授業の一般目標 (G I O)	医療の現場でも英語を使って仕事ができることを目指す。また、医療に関する最新の新聞記事などを独力で読める力を伸ばす。

【担当教員から】

教科書	
参考書	
成績評価基準	定期試験：シラバスで明示した到達目標を達成しているかを評価する。
成績評価方法	成績評価の基準（評価割合 (%)） 期末(到達目標達成確認) 試験成績――― 95% (課題等を行わなかった場合は100%) 課題等――― 5% (課題等を行った場合の加算割合)
履修の条件 留意点	期末(到達目標達成確認) 試験、課題の評価を合計して60%以上で履修とする。 この科目は基礎分野・科学的思考の基盤人間と生活・医用英語Ⅱの単位として認定されます。なお、本科目の定期試験受験の為には、授業の70%以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。
担当教員	★授業時間外に必要な学習内容 知っている英単語でも、ナチュラルスピードで話されると耳でキャッチできないことが多い。そのため、普段からできるだけ英語を聞いて理解する訓練をしてほしい。 また、授業で扱う医療に関する英語の語彙はすべて聞き取れてさらに使えるよう練習してほしい。
オフィスアワー	授業開講日の 12:45~13:00 3F 教員室



【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SBOs)	講義形態
前期	1	具体的な症状についてのオーラル演習 1	専門に関わる英語を聞いて理解し、さらには使えることを目指す。また、専門に関わる語彙、表現を読んで理解できるようにする。	講義
	2	具体的な症状についてのオーラル演習 2		講義
	3	具体的な症状についてのオーラル演習 3		講義
	4	具体的な症状についてのオーラル演習 4		講義
	5	具体的な症状についてのオーラル演習 5		講義
	6	具体的な症状についてのオーラル演習 6		講義
	7	具体的な症状についてのオーラル演習 7		講義
	8	具体的な症状についてのオーラル演習 8		講義
	9	具体的な症状についてのオーラル演習 9		講義
	10	具体的な症状についてのオーラル演習 10		講義
	11	具体的な症状についてのオーラル演習 11		講義
	12	具体的な症状についてのオーラル演習 12		講義
	13	具体的な症状についてのオーラル演習 13		講義
	14	期末(到達目標達成確認)試験		講義/試験
	15	後期試験の解説、復習		講義

【基本情報】

配当年次	2学年	担当教員	根岸 秀幸	
単位数	2単位		(ねぎし ひでゆき)	
開講学期	前期	授業形態・回数	講義	15回

【授業情報】

授業概要	元素名と元素記号、さらに化学式を学び、物質の構造、状態変化・化学変化と物理変化の相違を説明できるように展開していく。また、生理学に結びつける事を念頭におき、酸性・アルカリ性とpHや無機化合物と有機化合物の相違も講義に取り入れて行く。
授業の一般目標 (GIO)	まず、物質の性質やいろいろな反応などについての基礎的な化学知識を身につける。そして、専門基礎分野並びに専門分野へ繋がる幅広い知識を修得する。

【担当教員から】

教科書	
参考書	改訂版 視覚でとらえる「フォトサイエンス 化学図録」数研出版編集部 編著
成績評価基準	定期試験：シラバスで明示した到達目標を達成しているかを評価する。 課題(レポート・小テスト等)：レポートであればルーブリック評価を用い、小テストは授業時間内に実施し、各定期試験に反映させることがある。
成績評価方法	成績評価の基準(評価割合(%)) 期末(到達目標達成確認)試験：100% ※課題等がある学期には評価に加算する。
履修の条件 留意点	期末(到達目標達成確認)試験、課題の評価を合計して60%以上で履修とする。この科目は基礎分野・科学的思考の基盤人間と生活・化学の単位として認定されます。なお、本科目の定期試験受験の為には、授業の70%以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。
担当教員	★授業時間外に必要な学習内容(担当者からのメッセージ) 授業後は復習の習慣をつけることが大事であります。予習→授業→復習のサイクルを守るように。分らない事をそのままにしないで、きちんと学習して、基礎的な知識を身につけましょう。
オフィスアワー	授業開講日の12:45~13:00 3F教員室



【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SBOs)	講義形態
前期	1	サイエンスと化学(数値精度, 単位)	元素名と元素記号、さらに化学式を記述できる。	講義
	2	元素・原子・分子(原子の構造)		講義
	3	物質の構成と化学結合(物質の構成, 化学結合)	物質の構成や構造を説明できる。	講義
	4	物質の状態(1)(状態の定義)	物質の状態変化を説明できる。	講義
	5	物質の状態(2)(気体, 液体, 固体)		講義
	6	溶液の化学(1)(溶液の定義, 濃度)	化学変化と物理変化の相違を説明できる。	講義
	7	溶液の化学(2)(溶液の性質)		講義
	8	コロイド化学(1)(コロイド溶液の定義)		講義
	9	コロイド化学(2)(コロイド溶液の性質)		講義
	10	酸と塩基(1)(酸と塩基の定義)		酸性・アルカリ性と pH を説明できる。
	11	酸と塩基(2)(pH の定義, 中和反応)	講義	
	12	酸と塩基(3)(緩衝溶液)	講義	
	13	酸化と還元(酸化還元反応の定義)	講義	
	14	有機化学(有機化合物とは何か)	無機・有機化合物の相違を説明できる。	講義
	15	高分子化学(高分子化合物とは何か)・ 期末(到達目標達成確認)試験		講義/試験

【科目】 臨床医学 I 【診察概論（臨床医学総論）】

【基本情報】

配当年次	2 学年	担当教員	三浦 洋	
単位数	2 単位		(みうら ひろし)	
開講学期	2~3 学期	授業形態・回数	講義	24 回

【授業情報】

授業概要	臨床に必要な診察および治療に関する医学知識ならびに技能の概要を理解する。
授業の一般目標 (GIO)	臨床医学総論の概要を理解する。 診察の方法と応用を概説できる。

【担当教員から】

教科書	1. 『臨床医学総論』 学校協会編
参考書	1. 『臨床医学各論』 学校協会編 2. 『リハビリテーション医学』 学校協会編
成績評価基準	シラバスで明示した到達目標を達成しているかを、期末試験で評価する。
成績評価方法	成績評価の算定方法（評価割合：％） 期末（到達目標達成確認）試験（年度末試験含む）：100％
履修の条件 留意点	期末（到達目標達成確認）試験を合計して 60%以上と年度末試験の合格により履修とする。【年度末試験対象科目】この科目は専門基礎分野・疾病の成り立ち、その予防及び回復の促進・臨床医学 I の単位として認定されます。
担当教員	★授業時間外に必要な学習内容（担当者からのメッセージ）
	1. 解剖学、生理学を理解していることを前提に授業を行います。各器官の名称および生理機能を復習しておいて下さい。 2. 復習が大事です。関連する他の科目と関連付けて理解します。
オフィスアワー	授業開講日の 12：45～13：00 3F 教員室

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標（SBOs）	講義形態
2期	1	診察の概要・医療面接（問診）	診察の概要、問診についての概要が説明できる。	講義
	2	身体診察の方法	身体診察についての概説が説明できる。	講義
	3	生命徴候	生命徴候についての概説が説明できる。	講義
	4	生命徴候		講義
	5	全身の診察	全身の診察についての概要が説明できる。	講義
	6	全身の診察		講義
	7	全身の診察		講義
	8	全身の診察		講義
	9	全身の診察		講義
	10	まとめ		講義
	11	期末(到達目標達成確認)試験		試験
	12	期末試験の解説・解答 まとめ		講義
3期	13	感覚検査法	感覚検査についての概要が説明できる。	講義
	14	感覚検査法		講義
	15	反射検査	反射についての概要が説明できる。	講義
	16	反射検査		講義
	17	脳神経の検査	脳神経の検査についての概要が説明できる。	講義
	18	脳神経の検査		講義
	19	運動機能検査	運動機能検査についての概要が説明できる。	講義
	20	運動機能検査		講義
	21	運動機能検査		講義
	22	まとめ		講義
	23	期末(到達目標達成確認)試験		試験
	24	期末試験の解説・解答 まとめ		講義
	25	年度末試験		試験

【科目】疾病治療論 I 【リハビリテーション医学概論 I】

【基本情報】

配当年次	2 学年	担当教員	福本 彩季	
単位数	2 単位		(ふくもと あき)	
開講学期	2~3 学期	授業形態・回数	講義	24 回

【授業情報】

授業概要	<p>リハビリテーションは運動機能、日常生活活動の能力の障害を回復させ、社会・環境への適応を促進するために必要な第4の医学と呼ばれる。ここでは、リハビリテーション医学を理解し、障害と障害者への対応の概念を学ぶ。また、日本は4人に1人が高齢者となる超高齢社会を迎える。厚生労働省は2025年を目途に高齢者の尊厳の保持と自立生活支援の目的の元、地域包括ケアシステムの構築を推進しており、疾病予防と健康増進を目的にリハビリテーションの必要性は増し、さらに在宅医療推進の流れの中、あらゆる疾患経過時期における対応においてその重要性は高まっていることから、地域包括ケアシステムの構成要因としての、あはき師の役割を見据え、介護予防の分野における機能運動訓練を実践する。</p>
授業の一般目標 (GIO)	<p>障害を理解し、リハビリテーションの各時期に応じた対応を学ぶと共に、はき施術・介護分野・リハビリテーションにおける臨床・福祉の現場で活用できる、障害評価手法を学び実践をする。</p>

【担当教員から】

教科書	1. 『リハビリテーション医学』 学校協会編
参考書	1. 『標準リハビリテーション医学』 医学書院 2. 『理学療法ハンドブック』 協同医書出版社 3. 『障害と活動の測定・評価ハンドブック』 南江堂
成績評価の基準と方法	成績評価の基準と算定方法 (評価割合: %) 期末 (到達目標達成確認) 試験 (年度末試験含む): 100%
担当教員からの履修に当たっての留意点	定期 (到達目標達成確認) 試験の評価を合計して 60%以上と年度末試験の合格により履修とする。【年度末試験対象科目】この科目は専門基礎分野・疾病の成り立ち、その予防及び回復の促進・疾病治療論 I の単位として認定されます。
担当教員	★授業時間外に必要な学習内容 (担当者からのメッセージ) 1. HRにて教科書や配布プリント等を用いて、講義形式で行います。 2. 授業ではノートを取ったり、プリントに記入したりしながら、話をよく聴いてください。 3. 授業中は机上に飲み物や食べ物を置かないでください。 4. 携帯電話の電源は切ってください。どうしても携帯電話の使用が必要な場合は申し出てください。 5. 欠席した場合の配付資料はクラスメートにもらってもらるか、次の授業までに教員室にもらいに来てください。



【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SBOs)	講義形態
2期	1	リハビリテーションと障害	リハビリテーションと障害を説明出来る。	講義
	2	リハビリテーション医学と医療	リハビリテーションと医学と医療を説明出来る。	講義
	3	リハビリテーション医学と医療	リハビリテーションと医学と医療を説明出来る。	講義
	4	障害の評価	四肢長と周径、関節可動域測定法を説明できる。	講義
	5	障害の評価	徒手筋力テスト、粗大運動、運動の協調性のテストを説明できる。	講義
	6	障害の評価	四肢長と周径、関節可動域測定法、徒手筋力テストを実践できる。	実習
	7	障害の評価	活動の評価 (ADL の評価) を説明出来る。	講義
	8	障害の評価	参加の評価、合併症の評価を説明できる。	講義
	9	障害の評価	運動麻痺の評価、運動年齢テストを説明出来る。	講義
	10	障害の評価	失行失認、心理的評価を説明出来る。	講義
	11	期末(到達目標達成確認)試験		試験
	12	期末試験の解説・解答 まとめ		講義
3期	13	医学的リハビリテーション	理学療法 (運動療法) を説明できる。	講義
	14	医学的リハビリテーション	理学療法 (運動療法) を説明できる。	講義
	15	医学的リハビリテーション	理学療法 (物理療法)、作業療法、言語聴覚療法を説明できる。	講義
	16	医学的リハビリテーション 各疾患のリハビリテーション	・ 装具療法、リハビリテーション看護、ソーシャルワーク、リハビリテーション工学が説明できる。 ・ 末梢神経のリハビリテーションが説明できる。	講義
	17	医学的リハビリテーション	杖・松葉杖歩行、車椅子操作訓練を実践できる。	実習
	18	各疾患のリハビリテーション	骨関節疾患のリハビリテーションを説明できる。	講義
	19	各疾患のリハビリテーション	骨関節疾患のリハビリテーションを説明できる。	講義
	20	各疾患のリハビリテーション	関節リウマチのリハビリテーションが説明できる。	講義
	21	障害の評価	姿勢とその異常、正常歩行を説明出来る。	講義
	22	障害の評価	異常歩行を説明出来る。	講義
	23	期末(到達目標達成確認)試験		試験
	24	期末試験の解説・解答 まとめ		講義
	25	年度末試験		試験

【科目】保健と医療Ⅱ 【医療概論】

【基本情報】

配当年次	2 学年	担当教員	稲葉 千里	
単位数	1 単位		(いなば ちさと)	
開講学期	1 期	授業形態・回数	講義	12 回

【授業情報】

授業概要	国民が医療施設で医療を受けた際、医療費の負担が軽減される医療保険制度をわが国は敷いている。残念ながら、鍼灸の治療費はこの対象ではない。但し、現在は腰痛や五十肩などの限られた疾患に関する鍼灸の治療費が保険適応される(医療保険療養費支給申請ができる)制度がある。この授業ではわが国の医療保険制度や療養費の支給申請のための具体的方法を学ぶ。また、昨今一般的に知られるようになった代替医療や統合医療はどういうものなのか、その中における鍼灸の位置づけや役割、他の手法との違いを学んでいく。
授業の一般目標 (GIO)	免許を与えられて施術を行う責任感を持ち、わが国の社会保障制度について習得するために、はり師、きゅう師として医療保険療養費支給申請の手続きを理解する。 良質な医療連携を担えるようにはり師、きゅう師としてどうあるべきかを考察するために、医療倫理について理解する。

【担当教員から】

教科書	1. 「衛生学・公衆衛生学」第2版；東洋療法学校協会編, 医歯薬出版(株) 2. 「医療概論」；東洋療法学校協会編, 医歯薬出版(株) 3. 「社会あはき学」；東洋療法学校協会編, 医歯薬出版(株)
参考書	1. 「国民衛生の動向」；厚生労働統計協会 2. 「療養費の支給基準」；社会保険研究所 3. 「公衆衛生がみえる」；メディックメディア
成績評価基準	シラバスで明示した到達目標を達成しているかを、年間の定期試験で評価する。
成績評価方法	成績評価の基準と算定方法(評価割合：%) 期末(到達目標達成確認)試験(年度末試験含む)：100%
履修の条件 留意点	定期(到達目標達成確認)試験の評価を合計して60%以上と年度末試験の合格により履修とする。【年度末試験対象科目】この科目は専門基礎分野・保健医療福祉とはり、きゅうの理念・保健と医療Ⅱの単位として認定されます。
担当教員	★授業時間外に必要な学習内容(担当者からのメッセージ) 1. HRにて教科書や配布プリント等を用いて、講義形式で行います。 2. 授業ではノートを取ったり、プリントに記入しながら、話をよく聴いてください。 3. 授業中は机の上に飲み物や食べ物を置かないでください。 4. 携帯電話の電源は切ってください。どうしても携帯電話の使用が必要な場合は申し出てください。 5. 欠席した場合の配付資料はクラスメートにもらってもらるか、次の授業までに教員室にもらいに来てください。
オフィスアワー	授業開講日の12:45~13:00 3F教員室



【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標（SBOs）	講義形態
1期	1	わが国の社会保障制度	わが国の社会保障制度を概説できる。	講義
	2	わが国の医療保障制度①	社会保険や公的扶助について説明できる。 医療保険の種類を挙げ、説明できる。 公費医療について説明できる。 医療費の支払いについて概説できる。 鍼灸の療養費の取り扱いについて概説できる。	講義
	3	わが国の医療保障制度②		講義
	4	わが国の医療保障制度③		講義
	5	わが国の医療保障制度④		講義
	6	わが国の医療保障制度⑤		講義
	7	国民医療費		国民医療費について説明できる。 国民医療費増大の原因と対策を説明できる。
	8	わが国の介護保険制度	わが国の介護保険制度について概説できる。	講義
	9	医療に携わる者としての倫理	ヒポクラテスの誓い等、医療に携わる者としての倫理が理解できる。 患者の権利の宣言等、患者と医療に携わる者としての倫理を理解できる。	講義
	10	医療と社会の倫理	医療と社会の倫理を理解できる。 医療倫理の変遷を説明できる。	講義
	11	期末(到達目標達成確認)試験		試験
	12	期末試験の解説・解答 まとめ		講義
	13	年度末試験		試験

【科目】東洋医学Ⅲ【東洋医学概論Ⅱ】

【基本情報】

配当年次	2 学年	担当教員	坂本 辰徳	
単位数	3 単位		(さかもと たつのり)	
開講学期	1～3 学期	授業形態・回数	講義	36 回

【授業情報】

授業概要	東洋医学の診断法である四診を理解し、四診から得られる情報を基に証を決定する。さらに、証に応じた治療法、治療穴について学ぶ。また、様々な刺法の特徴についても学んでいく。
授業の一般目標 (G I O)	東洋医学による診断、治療ができるようになるために、東洋医学における人体の構造機能の基礎知識の概要を理解する。

【担当教員から】

教科書	1. 新版 東洋医学概論；東洋療法学校協会編
参考書	
成績評価基準	シラバスで明示した到達目標を達成しているかを評価する。
成績評価方法	成績評価の基準（評価割合：％） 1. 期末(到達目標達成確認)試験：100％
履修の条件 留意点	期末(到達目標達成確認)試験の評価 60％以上と年度末試験の合格により履修とする。 【年度末試験対象科目】この科目は専門分野・基礎はり学、基礎きゆう学・東洋医学Ⅲの単位として認定されます。
担当教員	★授業時間外に必要な学習内容（担当者からのメッセージ）
	1. 東洋医学の考え方による治療に結びつく所であるため、授業の予習・復習をして授業に臨むなど、積極的な学習姿勢が望まれる。 2. 授業では、ノートをとるだけでなく、話をよく聞くこと。 3. 東洋医学には独特の考え方があるので、現代医学理論にこだわらないこと。
オフィスアワー	授業開講日の12：45～13：00 3F教員室

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SBOs)	講義形態
1期	1	弁証① 1) 八綱弁証	1. 八綱弁証について説明できる。	講義
	2	望診① (神・色・形・態・舌診)	1. 神・色・形・態について説明できる。 2. 舌診について説明できる。	講義
	3	望診② (舌診)	1. 特徴的な舌と証について説明できる。	講義
	4	聞診 (声診・五音・五声・呼吸・発語・異常音・気味)	1. 聞診について説明できる。 2. 特徴的な症状と証について説明できる。	講義
	5	問診① (問診の進め方・主訴・基本的問診事項)	1. 問診について説明できる。 2. 寒熱と証について説明できる。 3. 飲食と証について説明できる。	講義
	6	問診② (基本的問診事項)	4. 睡眠と証について説明できる。 5. 二便と証について説明できる。 6. 情志と証について説明できる。	講義
	7	問診③ (その他の問診事項)	7. 生活環境と証について説明できる。 8. 身体各部位の症状と証について説明できる。 9. 汗と証について説明できる。	講義
	8	問診④ (その他の問診事項)	10. 疼痛と証について説明できる。 11. 女性の症状と証について説明できる。	講義
	9	切診① (反応・腹診・切経・経穴診)	1. 切診について説明できる。 2. 特徴的な症状と証について説明できる。	講義
	10	切診② (脈診・四診合参)	1. 脈診について説明できる。 2. 特徴的な脈と証について説明できる。	講義
	11	期末(到達目標達成確認)試験		試験
	12	期末試験の解説・解答 まとめ		講義
2期	13	弁証② 2) 気血津液弁証①	1. 気の病証について説明できる。 2. 血の病証について説明できる。	講義
	14	弁証③ 2) 気血津液弁証②	3. 津液の病証について説明できる。 4. 精の病証について説明できる。	講義
	15	弁証④ 2) 気血津液弁証③	5. 陰の病証について説明できる。 6. 陽の病証について説明できる。	講義
	16	弁証⑤ 2) 気血津液弁証④	7. 複合的な病証について説明できる。	講義
	17	弁証⑥ 3) 臓腑弁証①	1. 肝・胆の病証について説明できる。	講義
	18	弁証⑦ 3) 臓腑弁証②	2. 心・小腸の病証について説明できる。	講義
	19	弁証⑧ 3) 臓腑弁証③	3. 脾・胃の病証について説明できる。	講義
	20	弁証⑨ 3) 臓腑弁証④	4. 肺・大腸の病証について説明できる。	講義
	21	弁証⑩ 3) 臓腑弁証⑤	5. 腎・膀胱の病証について説明できる。	講義
	22	弁証⑪ 3) 臓腑弁証⑥	6. 五臓の複合病証について説明できる。	講義
	23	期末(到達目標達成確認)試験		試験
	24	期末試験の解説・解答 まとめ		講義
3期	25	弁証⑫ 3) 臓腑弁証⑦		講義
	26	弁証⑬ 3) 臓腑弁証⑧		講義
	27	弁証⑭ 3) 臓腑弁証⑨	1. 五臓の複合病証について説明できる。	講義
	28	弁証⑮ 4) 経絡弁証	1. 十二経脈の病証について説明できる。	講義
	29	弁証⑯ 5) 六淫弁証・6) 六経弁証 7) 衛気営血弁証・8) 三焦弁証・ 標本と主客	1. 六淫弁証について説明できる。 2. 六経弁証について説明できる。 3. 衛気営血弁証について説明できる。 4. 三焦弁証について説明できる。 5. 標本と主客について説明できる。	講義
	30	論治① (治則・治法)	1. 医療人の心得について説明できる。	講義
	31	論治② (治則・治法)	2. 治療原則について説明できる。 3. 治法について説明できる。	講義
	32	論治③ (治療法の概要)	1. 治療法の概要について説明できる。 2. 補瀉法について説明できる。	講義
	33	論治④ (治療法の概要)	1. 選穴の原則について説明できる。 2. 古代刺法について説明できる。	講義
	34	まとめ		講義
	35	期末(到達目標達成確認)試験		試験
	36	期末試験の解説・解答 まとめ		講義
	37	年度末試験		試験

【基本情報】

配当年次	2学年	担当教員	黒田 達夫	
単位数	2単位		(くろだ たつお)	
開講学期	1～2期	授業形態・回数	講義	24回

【授業情報】

授業概要	はき師において臨床では経穴を取穴出来ることは必須である。1年次には取穴に必要な経絡経穴の種類や名前、部位を学んだが、ここでは、さらに確実に取穴をするために人体の骨、筋肉、神経、血管などの場所を正確に覚える。また、特によく使われる要穴や奇穴を名前や部位を覚え、臨床に必要な経絡経穴の知識を学んでいく。
授業の一般目標 (GIO)	人体各部の経穴を教科書に記載された通りに取穴するために、筋、神経、血管の場所を理解し、実際の取穴法を修得する。

【担当教員から】

教科書	1. 新版 経絡経穴概論；東洋療法学校協会編（医道の日本社）
参考書	1. WHO 経穴部位日本語公式版 2. 東洋医学概論；東洋療法学校協会編（医道の日本社）
成績評価基準	シラバスで明示した到達目標を達成しているかを、年間の定期試験、授業毎に実施する小テストの評価を総合的に評価する。
成績評価方法	成績評価の基準（評価割合：％） 1. 期末（到達目標達成確認）試験（年度末試験含む）：100％
履修の条件 留意点	期末（到達目標達成確認）試験、小テストの評価を合計して60%以上と年度末試験の合格により履修とする。【年度末試験対象科目】この科目は専門分野・基礎はり学、基礎きゆう学・東洋医学Ⅳの単位として認定されます。
担当教員	★授業時間外に必要な学習内容（担当者からのメッセージ）
	1. 治療を行うための最も基本的なものであるため、積極的な学習姿勢が望まれます。 2. 経穴の概要、経穴名、取穴部位、解剖学的知識の理解が必要になります。既習科目の理解を深めておくことが大切です。 3. 欠席、遅刻、早退などは授業内容が理解できなくなります。授業の出欠には十分留意してください。
オフィスアワー	授業開講日の12：45～13：00 3F教員室

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SBOs)	講義形態
1期	1	五要穴の概要と部位	五要穴の意味を説明できる。 五要穴に属する経穴とその部位を説明できる。	講義
	2	五俞穴の概要と部位	五俞穴の意味を説明できる。 五俞穴に属する経穴とその部位を説明できる。	講義
	3	八会穴の概要と部位 四総穴の概要と部位 八総穴の概要と部位	八会穴・四総穴・八総穴の意味を説明できる。 八会穴・四総穴・八総穴に属する経穴とその部位を説明できる。	講義
	4	奇経八脈の概要と流注、所属経穴について	奇経八脈の概要と流注、所属経穴について説明できる。	講義
	5	奇穴の部位と主治	奇穴の主治、部位を説明できる。	講義
	6	奇穴の部位と主治組合せ穴	奇穴の主治、部位を説明できる。 組合せを概説できる。	講義
	7	経絡経穴の現代的な研究	経絡・経穴の現代的な研究を説明できる。	講義
	8	上腕陰経、陽経の経穴の部位と取穴法、解剖について	上腕陰経、陽経の経穴の部位と取り方、解剖の各項目について説明できる。	講義
	9	前腕陰経の経穴の部位と取穴法、解剖について	前腕陰経の経穴の部位と取り方、解剖の各項目について説明できる。	講義
	10	前腕陽経の経穴の部位と取穴法、解剖について	前腕陽経の経穴の部位と取り方、解剖の各項目について説明できる。	講義
	11	まとめ		講義
	12	期末試験の解説・解答 まとめ		試験
2期	13	大腿陰経、陽経の経穴の部位と取穴法、解剖について	大腿陰経、陽経の経穴の部位と取り方、解剖の各項目について説明できる。	講義
	14	下腿陽経の経穴の部位と取穴法、解剖について	下腿陽経の経穴の部位と取り方、解剖の各項目について説明できる。	講義
	15	下腿陰経の経穴の部位と取穴法、解剖について	下腿陰経の経穴の部位と取り方、解剖の各項目について説明できる。	講義
	16	腰背殿部の経穴の部位と取穴法、解剖について	腰背殿部の経穴の部位と取り方、解剖の各項目について説明できる。	講義
	17	腰背殿部の経穴の部位と取穴法、解剖について	腰背殿部の経穴の部位と取り方、解剖の各項目について説明できる。	講義
	18	胸腹部の経穴の部位と取穴法、解剖について	胸腹部の経穴の部位と取り方、解剖の各項目について説明できる。	講義
	19	胸腹部の経穴の部位と取穴法、解剖について	胸腹部の経穴の部位と取り方、解剖の各項目について説明できる。	講義
	20	頸部、顔面部の経穴の部位と取穴法、解剖について	頸部、顔面部の経穴の部位と取り方、解剖の各項目について説明できる。	講義
	21	頸部、顔面部の経穴の部位と取穴法、解剖について	頸部、顔面部の経穴の部位と取り方、解剖の各項目について説明できる。	講義
	22	頭部の経穴の部位と取穴法、解剖について	頭部の経穴の部位と取り方、解剖の各項目について説明できる。	講義
	23	期末(到達目標達成確認)試験		試験
	24	期末試験の解説・解答 まとめ		講義
	25	年度末試験		試験

【分野】 専門分野 臨床はり学・臨床きゆう学

【科目】 はき理論 I 【はき理論 I】

【基本情報】

配当年次	2学年	担当教員	武井 良之	
単位数	1単位		(たけい よしゆき)	
開講学期	3学期	授業形態・回数	講義	12回

【授業情報】

授業概要	鍼、灸の施術が生体に対しどのように作用するか、なぜ体調や症状の変化が起こるのかを、解剖学・生理学を踏まえて、理解するための理論を学ぶ科目です。
授業の一般目標 (G I O)	鍼灸による生体の反応や作用について理解し、患者さんに説明できるようになるために、解剖学・生理学の知識を基に治効の理論を修得する。

【担当教員から】

教科書	1. 「はりきゆう理論」 東洋療法学校協会編 (株)医道の日本社
参考書	1. 「鍼灸医療安全ガイドライン」 鍼灸安全性委員会 医歯薬出版(株)
成績評価基準	シラバスで明示した到達目標を達成しているかを、年間の定期試験、授業振り返りシートの内容を総合的に評価する。 ※授業終了時に配布した用紙にその日の最重要点を簡潔まとめさせ、その内容の出来不出来によって算定される。
成績評価方法	成績評価の基準 (評価割合: %) 1. 期末(到達目標達成確認)試験 (年度末試験含む) : 100%
履修の条件 留意点	期末(到達目標達成確認)試験、授業振り返りシートの評価を合計して60%以上と年度末試験の合格により履修とする。【年度末試験対象科目】この科目は専門分野・臨床はり学・きゆう学・はき理論 I の単位として認定されます。
担当教員	★授業時間外に必要な学習内容 (担当者からのメッセージ) HRでの講義形式にて、機能・用語の理解に重点を置き、解説を行います。成績不良者もしくは希望者については適宜補習を行う予定です。授業中の私語、携帯電話などの不必要な使用に関しては対処します。
オフィスアワー	授業開講日の 12:45~13:00 3F 教員室



【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SBOs)	講義形態
3期	1	感覚 1. 感覚とは 2. 触圧覚の受容と伝導①	人体の感覚について説明できる。 触圧刺激の種類と特徴について説明できる。 触圧覚受容器の種類と特徴について説明できる。 触圧覚の求心性神経の種類と特徴について説明できる。	講義
	2	2. 触圧覚の受容と伝導② 3. 温度覚の受容と伝導①	触圧覚の伝導路について説明できる。 温度刺激の種類について説明できる。 温覚・冷覚受容器の種類と特徴について説明できる。 温度覚の求心性神経の種類と特徴について説明できる。 温度覚の伝導路について説明できる。	講義
	3	4. 痛覚の受容と伝導①	痛みの分類と特徴について説明できる。 痛覚受容器の種類と特徴について説明できる。 内因性発痛物質の種類と特徴について説明できる。 求心性神経線維の種類と特徴について説明できる。	講義
	4	5. 痛覚の受容と伝導② (3. 温度覚の受容と伝導②) 6. 深部感覚の受容と伝導	痛覚の伝導路について説明できる。 痛覚投射部位について説明できる。 熱痛・冷痛の発生と特徴について説明できる。 関連痛について説明できる。 深部感覚の種類について説明できる。 深部感覚の求心性神経の種類と特徴について説明できる。 深部感覚の伝導路について説明できる。	講義
	5	7. 反射と鍼灸刺激 ①体性-運動反射②自律神経反射(体性-内臓、内臓-内臓、内臓-体性反射)③軸索反射	体性-運動反射について説明できる。 自律神経反射について説明できる。 軸索反射について説明できる。	講義
	6	鍼鎮痛 1. 鍼麻酔 2. 鍼鎮痛① (1) 体内の鎮痛機構 (2) 内因性モルヒネ様物質(内因性オピオイドペプチド)	鍼麻酔について説明できる。 体内の鎮痛機構について説明できる。 内因性モルヒネ様物質の種類について説明できる。 オピオイドの受容体と拮抗物質について説明できる。	講義
	7	2. 鍼鎮痛② (3) 鍼鎮痛の末梢経路と中枢経路 ①下行性痛覚抑制系 ②上行性痛覚抑制系	上行性痛覚抑制系について説明できる。 下行性痛覚抑制系について説明できる。	講義
	8	2. 鍼鎮痛③ (3) 鍼鎮痛の末梢経路と中枢経路② ③ゲートコントロール説による鎮痛 ④広汎性侵害抑制調節 ⑤末梢性鎮痛 ⑥その他の鎮痛機序	ゲートコントロール説について以下の事柄を基に説明できる。 広汎性侵害抑制調節について説明できる。 末梢性鎮痛について説明できる。 その他の鎮痛機序について概説できる。	講義
	9	鍼灸施術の治療的作用	鍼灸施術の治療的作用について説明できる。	講義
	10	期末(到達目標達成確認)試験		試験
	11	期末試験の解説・解答		講義
	12	まとめ		試験
	13	年度末試験		試験

【科目】はき臨床診察学 I 【医療面接概論・身体診察実習】

【基本情報】

配当年次	2学年	担当教員	坂本 収司（実務経験あり）	
単位数	3単位		（さかもと しゅうじ）	
開講学期	1～3学期	授業形態・回数	講義、演習	36回

【授業情報】

授業概要	はき臨床の中で病態の鑑別をする上で医療面接（Medical Interview）と身体診察（Physical Examination）が的確にできるかが大きく影響します。ここでは、患者の身体の状態を総合的に診るための医療面接と身体診察の目的と意義並びにそれらの技術の基本を学んでいく。
授業の一般目標（GIO）	<ol style="list-style-type: none"> 1. はり及びきゆうの臨床における基本的臨床技能として重要な位置にある医療面接を習得するために、医療面接・コミュニケーション技法を理解する。 2. 施術者としてお互いの立場を尊重した人間関係を構築して、適切な医療面接を習得するために、患者役と面接者役となってロールプレイを行い、医療面接技法を理解する。 3. はり及びきゆうの臨床に必要な身体診察を実践するために、身体診察技能を修得する。

【担当教員から】

教科書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「臨床医学総論」東洋療法学校協会編 医歯薬出版(株) 2. 「臨床医学各論」東洋療法学校協会編 医歯薬出版(株) 3. その他、教材・資料プリント配布
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開業鍼灸師のための診察法と治療法 1～5；出端昭男著（医道の日本社） 2. はじめての医療面接コミュニケーション技法とその学び方；斎藤清二著（医学書院）
成績評価基準	シラバスで明示した到達目標を達成しているかを1学期と2学期の期末試験と3学期間の期末試験に該当させる3年次鍼灸臨床実習前評価試験の結果を総合的に判断して評価する。
成績評価方法	成績評価の基準（評価割合：％） 1. 期末（到達目標達成確認）試験（鍼灸臨床実習前評価試験試験含む）：100％
履修の条件 留意点	期末（到達目標達成確認）試験（鍼灸臨床実習前評価試験試験含む）の評価を合計して60％以上により履修とする。【3年次鍼灸臨床実習前評価試験対象科目】この科目は専門分野・臨床はり学・臨床きゆう学・はき臨床診察学 I の単位として認定されます。
担当教員	★授業時間外に必要な学習内容（担当者からのメッセージ）
	3年次に行う鍼灸臨床実習に必要な不可欠な授業であるため、出席状況が技術の習熟度に直結するといっても過言ではありません。また、グループを組んで行う内容もあるので、欠席や遅刻、早退などは授業内容が理解できなくなるだけでなく、クラスメイトにも迷惑をかけます。体調管理をしっかりと行い、授業の出欠には十分留意してください。
オフィスアワー	授業開講日の12：45～13：00 3F教員室

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SBOs)	講義形態
1期	1	1. 授業ガイダンス (鍼灸臨床の流れ) 2. バイタルサインの確認 (脈拍と血圧測定)	医療面接・問診、身体診察から鍼灸施術に至る臨床の一連の流れが理解できる。 バイタルサインが確認できる。毎回の授業時に脈拍、血圧測定が実践できる。	講義・演習
	2	3. 腰痛の診察①	主訴に対する主要疾患の特徴が説明できる。 主訴に対する問診事項の意義を理解して実践できる。 主訴に対する身体診察の意義を理解して実践できる。	講義・演習
	3	3. 腰痛の診察②		講義・演習
	4	4. 腰下肢痛の診察①		講義・演習
	5	4. 腰下肢痛の診察②		講義・演習
	6	4. 腰下肢痛の診察③		講義・演習
	7	5. 頸上肢痛の診察①		講義・演習
	8	5. 頸上肢痛の診察②		講義・演習
	9	5. 頸上肢痛の診察③		講義・演習
	10	まとめ		講義・演習
	11	*期末(到達目標達成確認)試験		(腰痛・腰下肢痛・頸上肢痛の診察)
	12	試験フィードバック		講義・演習
2期	13	6. 膝関節痛の診察①	主訴に対する主要疾患の特徴が説明できる。 主訴に対する問診事項の意義を理解して実践できる。 主訴に対する身体診察の意義を理解して実践できる。	講義・演習
	14	6. 膝関節痛の診察②		講義・演習
	15	6. 膝関節痛の診察③		講義・演習
	16	7. 肩関節痛の診察①		講義・演習
	17	7. 肩関節痛の診察②		講義・演習
	18	7. 肩関節痛の診察③		講義・演習
	19	まとめ		演習
	20	期末(到達目標達成確認)試験	(膝関節痛・肩関節痛の診察)	試験
	21	試験フィードバック		講義・演習
	22	8. 上肢痛・下肢痛の診察	徒手検査法の意義を理解して実践できる。	講義・演習
3期	23	9. 医療面接概論	コミュニケーションの基礎並びに医療面接の技法を理解し、実践することができる。	講義・演習
	24	10. 臨床推論概論	3年次鍼灸臨床実習を行う班(基本3人1組)内で協力して、腰痛・腰下肢痛・頸上肢痛・膝関節痛・肩関節痛それぞれの現病歴と診察所見から病態を推察し、あはき施術の適否を鑑別することができる。	講義・演習
	25	臨床推論演習①		講義・演習
	26	臨床推論演習②		講義・演習
	27	臨床推論演習③		講義・演習
	28	臨床推論演習④		講義・演習
	29	臨床推論演習⑤		講義・演習
	30	臨床推論演習⑥		講義・演習
	31	臨床推論演習⑦	講義・演習	
	32	後期期末試験シミュレーション	施術所にて実施される3年次鍼灸臨床実習での身体診察を安全かつ正確に行い所見を取ることができる。	講義・演習
	33	後期期末試験シミュレーション		講義・演習
	34	後期期末試験シミュレーション		講義・演習
	35	後期期末試験シミュレーション		講義・演習
	36	期末(到達目標達成確認)試験	※「施術所における臨床実習前評価試験」として実施	試験

【科目】はき臨床診察学Ⅱ【はき診察学Ⅰ（臨床医学各論Ⅰ）】

【基本情報】

配当年次	2学年	担当教員	福本 彩季	
単位数	3単位		(ふくもと あき)	
開講学期	1～3学期	授業形態・回数	講義	36回

【授業情報】

授業概要	1年時に学んだ人体についての解剖学・生理学をもとに、人体の機能が正常に働かなくなった状態である疾病についての概要を学んでいく。
授業の一般目標 (GIO)	主要疾患の概念、原因、主症状、検査所見と類似する疾患との鑑別診断の要点を身につける。

【担当教員から】

教科書	1. 「臨床医学各論」東洋療法学校協会編 医歯薬出版（株）
参考書	1. 「臨床医学総論」東洋療法学校協会編 医歯薬出版（株）
成績評価基準	シラバスで明示した到達目標を達成しているかを、定期試験により評価する。
成績評価方法	成績評価の算定方法（評価割合：％） 定期（到達目標達成確認）試験：100％
履修の条件 留意点	定期（到達目標達成確認）試験の評価を合計して60％以上で履修とする。この科目は専門分野・臨床はり学・臨床きゆう学・はき臨床診察学Ⅱの単位として認定されます。
担当教員	★授業時間外に必要な学習内容（担当者からのメッセージ） 授業内容は実技科目と臨床実習が関連するため、積極的な学習姿勢が望まれます。
オフィスアワー	授業開講日の12：45～13：00 3F教員室



【授業計画】

	回数	講義内容	到達目標 (SBOs)	講義形態	
1 学期	1	整形外科疾患①	整形外科疾患（関節疾患・骨代謝性疾患・骨腫瘍・筋・腱疾患・形態異常・脊椎疾患・脊髄損傷・外傷等）についての概要が説明できる。	講義	
	2	整形外科疾患②		講義	
	3	整形外科疾患③		講義	
	4	整形外科疾患④		講義	
	5	整形外科疾患⑤		講義	
	6	感染症①	感染症（細菌感染症・ウイルス感染症・性感染症）についての概要が説明できる。	講義	
	7	感染症②		講義	
	8	口腔・胃腸系疾患①	口腔・胃腸系疾患（口腔疾患・食道疾患・胃・十二指腸疾患・腸疾患・腹膜疾患）についての概要が説明できる。	講義	
	9	口腔・胃腸系疾患②		講義	
	10	口腔・胃腸系疾患③		講義	
		11	期末(到達目標達成確認)試験		試験
		12	期末試験の解説・解答 まとめ		講義
2 学期	13	肝・胆・膵臓系疾患①	肝・胆・膵臓系疾患（肝臓疾患・胆道疾患・膵臓疾患）についての概要が説明できる。	講義	
	14	肝・胆・膵臓系疾患②		講義	
	15	呼吸器系疾患①	呼吸器疾患（感染性呼吸器疾患・閉塞性呼吸器疾患・拘束性呼吸器疾患等）についての概要が説明できる。	講義	
	16	呼吸器系疾患②		講義	
	17	呼吸器系疾患③		講義	
	18	泌尿器系疾患①	泌尿器系疾患（原発性糸球体腎炎・腎不全・感染症・腫瘍性疾患・結石症・前立腺疾患）についての概要が説明できる。	講義	
	19	泌尿器系疾患②		講義	
	20	泌尿器系疾患③		講義	
	21	内分泌系疾患①	内分泌系疾患（下垂体疾患・甲状腺疾患）についての概要が説明できる。	講義	
	22	内分泌系疾患②		講義	
		23	期末(到達目標達成確認)試験		試験
		24	期末試験の解説・解答		講義
3 学期	25	内分泌系疾患③	内分泌系疾患（副腎疾患）についての概要が説明できる。	講義	
	26	代謝系疾患①	代謝系疾患（糖代謝異常・脂質代謝異常・尿酸代謝異常等）についての概要が説明できる。	講義	
	27	代謝系疾患②		講義	
	28	循環器系疾患①	循環器系疾患（心臓疾患・冠動脈疾患・動脈疾患・血圧異常）についての概要が説明できる。	講義	
	29	循環器系疾患②		講義	
	30	循環器系疾患③		講義	
	31	血液・造血器系疾患①	血液・造血器系疾患（赤血球疾患・白血球疾患・リンパ網内系疾患・出血性素因）についての概要が説明できる。	講義	
	32	血液・造血器系疾患②		講義	
	33	血液・造血器系疾患③		講義	
		34	まとめ		講義
		35	期末(到達目標達成確認)試験		試験
	36	期末試験の解説・解答		講義	
	37	年度末試験		試験	

【科目】 はき臨床診察学Ⅲ 【東洋臨床診察治療学】

【基本情報】

配当年次	2 学年	担当教員	小林 純子	
単位数	3 単位		(こばやし じゅんこ)	
開講学期	1～3 学期	授業形態・回数	講義	36 回

【授業情報】

授業概要	東洋医学概論で学習した診断、治療を応用し、症状に対する考え方から証立て、配穴、治療法を学習する。
授業の一般目標 (G I O)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 東洋医学概論で学習した診断、治療を応用し、患者の愁訴から証立てを行うために、各症候の東洋医学的な病態を理解する。 2. 経絡経穴概論で学習した経絡の流注、経穴の特徴を応用し選穴・配穴を行うために、各病証・証立てに応じた配穴を理解する。

【担当教員から】

教科書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新版 東洋医学概論；東洋療法学校協会編 2. 新版 経絡経穴概論；東洋療法学校協会編 3. 東洋医学臨床論（はりきゅう編）；東洋療法学校協会編 4. 東洋医学臨床論（あん摩マッサージ指圧編）；東洋療法学校協会編
参考書	
成績評価基準	シラバスで明示した到達目標を達成しているかを定期試験で評価する。
成績評価方法	成績評価の基準（評価割合：％） 期末(到達目標達成確認)試験（年度末試験）：100％
履修の条件 留意点	期末(到達目標達成確認)試験が60％以上と年度末試験の合格により履修とする。【年度末試験対象科目】この科目は専門分野・臨床はり学、臨床きゅう学・はき臨床診察学Ⅲの単位として認定されます。
担当教員	 <p>★授業時間外に必要な学習内容（担当者からのメッセージ） 東洋医学の考え方による治療法を学ぶため、授業の予習・復習をして授業に臨むなど、積極的な学習姿勢が望まれます。授業では、ノートをとるだけでなく、話をよく聞いてください。</p>
オフィスアワー	

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SBOs)	講義形態
1期	1	治療総論、治療原則	1. 治療原則について説明することができる。 2. 各症候の東洋医学的な病態を説明することができる。 3. 適応となる疾患の治療方針、治療穴を列挙することができる。	講義
	2	頭痛		講義
	3	頭痛		講義
	4	顔面痛		講義
	5	顔面麻痺		講義
	6	歯痛		講義
	7	眼精疲労		講義
	8	鼻閉と鼻汁		講義
	9	脱毛症		講義
	10	めまい		講義
	11	期末(到達目標達成確認)試験		試験
	12	期末試験の解説・解答 まとめ	講義	
2期	13	耳鳴りと難聴	1. 各症候の東洋医学的な考え方を述べるができる。 2. 各症候の東洋医学的な病態を説明することができる。 3. 適応となる疾患の治療方針、治療穴を列挙することができる。	講義
	14	咳嗽		講義
	15	喘息		講義
	16	胸痛		講義
	17	腹痛		講義
	18	悪心と嘔吐		講義
	19	便秘		講義
	20	下痢		講義
	21	月経異常		講義
	22	排尿障害		講義
	23	期末(到達目標達成確認)試験		試験
	24	期末試験の解説・解答 まとめ	講義	
3期	25	インポテンツ	1. 各症候の東洋医学的な考え方を述べることができる。 2. 各症候の東洋医学的な病態を説明することができる。 3. 適応となる疾患の治療方針、治療穴を列挙することができる。	講義
	26	高血圧		講義
	27	低血圧		講義
	28	食欲不振		講義
	29	肥満		講義
	30	発熱		講義
	31	のぼせと冷え		講義
	32	不眠		講義
	33	疲労と倦怠		講義
	34	発疹		講義
	35	期末(到達目標達成確認)試験		試験
	36	期末試験の解説・解答 まとめ	講義	
37	年度末試験	試験		

【科目】 応用はりきゅう実技 I 【東洋臨床診察治療実習】

【基本情報】

配当年次	2 学年	担当教員	川澄 裕子 (実務経験あり)	船水 隆広 (実務経験あり)
単位数	2 単位		(かわすみ ゆうこ)	(ふなみず たかひろ)
開講学期	前・後期	授業形態・回数	実習	36 回

【授業情報】

授業概要	東洋医学概論で学習した診断、治療を応用し中医学、経絡治療の考え方を学ぶ。また東洋医学的な医療面接や四診から証立てや配穴を導き出し、治療に必要な技術を学ぶ。
授業の一般目標 (G I O)	<p>種々の症候に対する東洋医学的施術（中医学・経絡治療）が行えるようになるために、以下の目標を位置づける。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 東洋医学的な医療面接について理解する。 2. 四診を理解する。 3. 東洋臨床診察治療学で学習した診断、治療を応用するために、東洋医学的な治療に必要な技術を習得する。 4. 証立てから、配穴法を理解する。

【担当教員から】

教科書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新版 東洋医学概論；東洋療法学校協会編 2. 新版 経絡経穴概論；東洋療法学校協会編 3. 東洋医学臨床論；東洋療法学校協会編
参考書	
成績評価基準	シラバスで明示した到達目標を達成しているかを評価する。
成績評価方法	<p>成績評価の基準と算定方法（評価割合：％）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 期末(到達目標達成確認)試験：100％
履修の条件 留意点	期末(到達目標達成確認)試験の評価が60%以上により履修とする。この科目は専門分野・実習・鍼灸実習・応用はりきゅう実技 I の単位として認定されます。
担当教員	<p>★授業時間外に必要な学習内容（担当者からのメッセージ）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 東洋医学的な治療を体得できるよう、反復練習をすること。 2. 施術する経穴を十分理解すること。 3. 授業では、実技の前に講義とデモンストレーションがあるのでノートをとりながら、話をよく聞くこと。 <p>（身だしなみなど衛生的配慮等を施術者として心掛けてください。）</p>
オフィスアワー	授業開講日の 12:45～13:00 3F 教員室



【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SBOs)	講義形態
前期	1	望診 (舌診)	1. 舌診について説明できる。 2. 舌診から証立てができる。 3. 証立てに応じた選穴、刺鍼ができる。	実習
	2	問診① (問診の進め方・主訴・基本的問診事項)	1. 問診項目について説明できる。 2. 問診から証立てができる。	実習
	3	問診② (基本的問診事項)	3. 証立てに応じた選穴、刺鍼ができる。	実習
	4	切診① (腹診)	1. 腹診について説明できる。 2. 腹診から証立てができる。 3. 証立てに応じた選穴、刺鍼ができる。	実習
	5	切診② (脈診1)	1. 脈診について説明できる。	実習
	6	切診③ (脈診2)	2. 脈診から証立てができる。 3. 証立てに応じた選穴、刺鍼ができる。	実習
	7	弁証① 2) 気血津液弁証①	1. 気の病証について説明できる。 2. 血の病証について説明できる。	実習
	8	弁証② 2) 気血津液弁証②	3. 津液の病証について説明できる。 4. 証立てに応じた選穴、刺鍼ができる。	実習
	9	前期確認試験		試験
	10	まとめ	フィードバック	実習
	11	弁証③ 3) 臟腑弁証① (肝と胆)	1. 肝の病証について説明できる。 2. 胆の病証について説明できる。 3. 証立てに応じた選穴、刺鍼ができる。	実習
	12	弁証④ 3) 臟腑弁証② (心と小腸)	1. 心の病証について説明できる。 2. 小腸の病証について説明できる。 3. 証立てに応じた選穴、刺鍼ができる。	実習
	13	弁証⑤ 3) 臟腑弁証③ (脾と胃)	1. 脾の病証について説明できる。 2. 胃の病証について説明できる。 3. 証立てに応じた選穴、刺鍼ができる。	実習
	14	弁証⑥ 3) 臟腑弁証④ (肺と大腸)	1. 肺の病証について説明できる。 2. 大腸の病証について説明できる。 3. 証立てに応じた選穴、刺鍼ができる。	実習
	15	弁証⑦ 3) 臟腑弁証⑤ (腎と膀胱)	1. 腎の病証について説明できる。 2. 膀胱の病証について説明できる。 3. 証立てに応じた選穴、刺鍼ができる。	実習
	16	弁証⑧ 4) 臟腑相関弁証	1. 臟腑相関弁証について説明できる。 2. 証立てに応じた選穴、刺鍼ができる。	実習
	17	期末 (到達目標達成確認) 試験		試験
	18	まとめ	フィードバック	実習
後期	19	補瀉手技	補瀉手技ができる。	実習
	20	足陰経の取穴	足陰経の取穴ができる。	実習
	21	手陰経の取穴	手陰経の取穴ができる。	実習
	22	経絡治療概論	経絡治療概論について説明できる。	実習
	23	病理二分論 六十九難本治法	病理二分論と六十九難本治法を説明できる。	実習
	24	祖脈診の理論と実技	祖脈診の理論について説明でき祖脈診ができる。	実習
	25	取穴練習	指定された経穴の取穴ができる。	実習
	26	後期確認試験		試験
	27	比較脈診の理論と実技	比較脈診の理論について説明でき実技ができる。	実習
	28	全身調整穴 (仰臥位)	全身調整穴の取穴と刺鍼ができる。	実習
	29	全身調整穴 (伏臥位)	全身調整穴の取穴と刺鍼ができる。	実習
	30	肝 蔵象と虚証	蔵象と虚証について説明できる。	実習
	31	腎 蔵象と虚証	蔵象と虚証について説明できる。	実習
	32	肺 蔵象と虚証	蔵象と虚証について説明できる。	実習
	33	脾 蔵象と虚証	蔵象と虚証について説明できる。	実習
	34	全身調整穴刺鍼練習	全身調整穴の取穴と刺鍼ができる。	実習
	35	期末 (到達目標達成確認) 試験		試験
	36	まとめ	フィードバック	実習

【科目】 応用はりきゅう実技Ⅱ 【特殊鍼法・特殊灸法実習】

【基本情報】

配当年次	2 学年	担当教員	西岡 岳之 (実務経験あり)	
単位数	2 単位		(にしおか たけゆき)	
開講学期	前・後期	授業形態・回数	実習	36 回

【授業情報】

授業概要	<p>鍼灸医学の治療法には様々な対応方法がある。施術者は一つの治療法だけに固執することなく、患者の様々な愁訴、要望に合わせて最も効果的な治療方法を選択しなければならない。</p> <p>外部治療院や学校付属施術所での臨床経験を活かして、伝統的な刺鍼法や施灸法を実践できるようにすることを目的とする。</p>
授業の一般目標 (GIO)	患者の様々な愁訴や要望に合わせて最も効果的な治療を選択するために、1 年次で修得した基本技能をもとに、伝統的な刺鍼法・施灸法を修得する。

【担当教員から】

教科書	<ol style="list-style-type: none"> はりきゅう理論；東洋療法学校協会編（医道の日本社） はりきゅう実技〈実技編〉第2版；東洋療法学校協会編（医道の日本社）
参考書	1. 図解 鍼灸臨床手技マニュアル 第2版；尾崎明弘著（医歯薬出版株式会社）
成績評価基準	シラバスで明示した到達目標を達成しているかを実技試験にて判断する。
成績評価方法	成績評価の基準と算定方法（評価割合：％） 期末(到達目標達成確認)試験：100％
履修の条件 留意点	期末(到達目標達成確認)試験の評価を合計して 60%以上により履修とする。この科目は専門分野・実習・鍼灸実習・応用はりきゅう実技Ⅱの単位として認定されます。
担当教員	<p>★授業時間外に必要な学習内容（担当者からのメッセージ）</p> <p>本授業では、特殊な鍼灸技術も学習します。場合によっては危険を伴う手技もあるので、教員のデモンストレーションをよく見て、話をよく聞き、注意を怠らないでください。また、事故防止のため、指示された部位以外への施灸を禁止します。指示された施灸が終了した時点で、必ず指導教員に確認を求め、次の指示に従ってください。</p>
オフィスアワー	授業開講日の 12：45～13：00 3F 教員室



【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SBOs)	講義形態
前期	1	0. ガイダンス	特殊新法・特殊灸法を行うにあたっての注意点を説明できる。	実習
	2	1. 透熱灸	米粒大と半米粒大を分けて施灸することができる。	実習
	3			実習
	4	2. 温筒灸・艾条灸	温筒灸・艾条灸の使用用途を説明できる。 温筒灸・艾条灸を安全に行うことができる。	実習 実習
	5	3. 知熱灸	知熱灸の使用用途を説明できる。 知熱灸を安全に行うことができる。	実習
	6	4. 隔物灸(生姜灸・塩灸など)	知熱灸・深谷灸法・隔物灸の使用用途を説明できる。 温筒灸・艾条灸・隔物灸を安全に行うことができる。	実習 実習
	7	5. 深谷灸法	深谷灸法の使用用途を説明できる。 深谷灸法を安全に行うことができる。	実習 試験
	8	まとめ		実習
	9	前期確認テスト		試験
	10	6. 接触鍼法(散鍼)①鍬鍼など	散鍼の使用用途を説明できる。 散鍼を安全に行うことができる。	実習
	11	6. 接触鍼法(散鍼)②毫鍼		実習
	12	7. 小児鍼・灸法	小児鍼・小児灸の使用用途を説明できる。 小児鍼を安全に行うことができる。	実習
	13	8. 皮内鍼・円皮鍼	皮内鍼・円皮鍼の使用用途を説明できる。 皮内鍼・円皮鍼を安全で衛生的に行うことができる。	実習
	14	9. 灸頭針法	灸頭針法の使用用途を説明できる。 灸頭針法を安全で衛生的に行うことができる。	実習
	15			実習
	16			実習
	17	期末(到達目標達成確認)試験	(灸頭針法)	試験
	18	フィードバック		実習
後期	19	10. 耳鍼	耳鍼の使用用途を説明できる。 耳鍼を安全で衛生的に行うことができる。	実習
	20	11. 吸角	吸角の使用用途を説明できる。 吸角を安全に行うことができる。	実習
	21			実習
	22			実習
	23	12. 低周波鍼通電療法①基本的使用方法 ②下肢 ③上肢 ④体幹	低周波鍼通の使用用途を説明できる。 低周波鍼通を安全で衛生的に行うことができる。	実習
	24			実習
	25			実習
	26			実習
	27			実習
	28			実習
	29	まとめ(低周波鍼通電・吸角)		実習
	30	期末(到達目標達成確認)試験		試験
	31	フィードバック		実習
	32	13. 頭皮部(百会)・顔面部(胡桃灸・ 眼瞼知熱灸)への施灸	頭皮部・顔面部への施灸の使用用途を説明できる。 頭皮部・顔面部への施灸を安全に行うことができる。	実習
33	実習			
34	14. 顔面部への刺鍼	顔面部への刺鍼の使用用途を説明できる。 顔面部への刺鍼を安全で衛生的に行うことができる。	実習	
35			実習	
36			実習	

【科目】 はき適応疾患実習 I 【運動器系疾患実習】

【基本情報】

配当年次	2学年	担当教員	堀部 豪（実務経験あり）	
単位数	2単位		（ほりべ ごう）	
開講学期	前・後期	授業形態・回数	実習	36回

【授業情報】

授業概要	外部治療院や学校付属施術所での臨床経験を活かして、運動器疾患に対する刺鍼法や施灸法を実践できるようにすることを目的としています。腰痛、腰下肢痛、頸上肢痛、肩痛、膝痛を始め、その他の運動器系疾患（スポーツ障害を含む）で、はき臨床において最も高頻度に扱われる症候・愁訴に対する施術の要点について学んでいきます。
授業の一般目標（GIO）	鍼灸にかかる患者の訴えで最も多い症状である腰痛・腰下肢痛・頸上肢痛・膝痛・五十肩などの整形外科系運動器疾患に対する正確かつ衛生的で安全な鍼灸施術を身につけるために、問診と身体診察による病能把握に基づいた具体的な治療方法の基礎を修得する。

【担当教員から】

教科書	1. 臨床医学各論；東洋療法学校協会編（医歯薬出版株式会社） 2. 臨床医学総論；東洋療法学校協会編（医歯薬出版株式会社） 3. その他、教材・資料プリント配布
参考書	1. 図解 鍼灸臨床手技マニュアル 第2版；尾崎明弘著（医歯薬出版株式会社） 2. 開業鍼灸師のための診察法と治療法1～5；出端昭男著（医道の日本社）
成績評価基準	シラバスで明示した到達目標を達成しているかを実技試験にて判断する。 ※後期末試験は、「施術所における鍼灸臨床実習前評価試験」として実施する。
成績評価方法	成績評価の基準（評価割合：%） 期末（到達目標達成確認）試験（鍼灸臨床実習前評価試験試験含む）：100%
履修の条件 留意点	期末（到達目標達成確認）試験（鍼灸臨床実習前評価試験試験含む）の評価を合計して60%以上により履修とする。【3年次鍼灸臨床実習前評価試験対象科目】この科目は専門分野・実習・はき適応疾患実習 I の単位として認定されます。
担当教員	★授業時間外に必要な学習内容（担当者からのメッセージ） 3年次に行う鍼灸臨床実習に必要な不可欠な授業であるため、出席状況が技術の習熟度に直結するといっても過言ではありません。また、グループを組んで行う内容もあるので、欠席や遅刻、早退などは授業内容が理解できなくなるだけでなく、クラスメイトにも迷惑をかけます。体調管理をしっかりと行い、授業の出欠には十分留意してください。
オフィスアワー	授業開講日の 12：45～13：00 3F 教員室



【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SBOs)	講義形態
前期	1	1. 授業ガイダンス 2. 刺鍼と施灸の基本確認	刺鍼の基本を確認して衛生的で安全な刺鍼ができる。 施灸の自主トレーニング方法を理解して実践できる。	講義・実習
	2	腰痛へのアプローチ①	鍼灸適応となる腰痛に対する治療穴の選定ができる。 治療穴を含めた腰痛の触診を的確に行うことができる。	実習
	3	腰痛へのアプローチ②	腰痛に対して衛生的で安全な施術を行うことができる。	実習
	4	腰下肢痛へのアプローチ①	鍼灸適応となる腰下肢痛に対する治療穴の選定ができる。 治療穴を含めた腰下肢痛の触診を的確に行うことができる。	実習
	5	腰下肢痛へのアプローチ②	腰下肢痛に対して衛生的で安全な施術を行うことができる。	実習
	6	腰下肢痛へのアプローチ③		実習
	7	頸上肢痛へのアプローチ①	鍼灸適応となる頸肩背痛に対する治療穴の選定ができる。 治療穴を含めた頸肩背痛の触診を的確に行うことができる。	実習
	8	頸上肢痛へのアプローチ②	頸上肢痛に対して衛生的で安全な施術を行うことができる。	実習
	9	頸上肢痛へのアプローチ③		実習
	10	膝関節痛へのアプローチ①	鍼灸適応となる膝関節痛に対する治療穴の選定ができる。 治療穴を含めた膝関節痛の触診を的確に行うことができる。	実習
	11	膝関節痛へのアプローチ②	膝関節痛に対して衛生的で安全な施術を行うことができる。	実習
	12	膝関節痛へのアプローチ③		実習
	13	肩関節痛へのアプローチ①	鍼灸適応となる肩関節痛に対する治療穴の選定ができる。 治療穴を含めた肩関節痛の触診を的確に行うことができる。	実習
	14	肩関節痛へのアプローチ②	肩関節痛に対して衛生的で安全な施術を行うことができる。	実習
	15	肩関節痛へのアプローチ③		実習
	16	まとめ		実習
	17	期末 (到達目標達成確認) 試験	(対人刺鍼と透熱灸)	試験
	18	試験フィードバック		実習
後期	19	腰痛へのアプローチ③		実習
	20	腰下肢痛へのアプローチ④		実習
	21	頸上肢痛へのアプローチ④	鍼灸適応となる腰痛・腰下肢痛・頸上肢痛・肩関節痛・膝関節痛に対する治療穴の選定ができる。 治療穴を含めた腰痛・腰下肢痛・頸上肢痛・肩関節痛・膝関節痛の触診を的確に行うことができる。	実習
	22	肩関節痛へのアプローチ④	腰痛・腰下肢痛・頸上肢痛・肩関節痛・膝関節痛に対して衛生的で安全な施術を行うことができる。	実習
	23	膝関節痛へのアプローチ④		実習
	24	腰痛へのアプローチ④		実習
	25	腰下肢痛へのアプローチ⑤	前期で修得した技能をより修練させていく。	実習
	26	頸上肢痛へのアプローチ⑤		実習
	27	肩関節痛へのアプローチ⑤		実習
	28	膝関節痛へのアプローチ⑤		実習
	29	上肢全般痛へのアプローチ①	鍼灸適応となる上肢症状に対する治療穴の選定ができる。 治療穴を含めた上肢の触診を確実にすることができる。 上肢に対して衛生的で安全な施術を行うことができる。	実習
	30	下肢全般痛へのアプローチ①	鍼灸適応となる下肢症状に対する治療穴の選定ができる。 治療穴を含めた下肢の触診を確実にすることができる。 下肢に対して衛生的で安全な施術を行うことができる。	実習
	31	スポーツ障害へのアプローチ②	鍼灸適応となるスポーツ傷害に対する治療穴の選定ができる。 治療穴を含めた罹患痛の触診を的確に行うことができる。 罹患痛に対して衛生的で安全な施術を行うことができる。	実習
	32	後期期末試験シミュレーション		実習
	33	後期期末試験シミュレーション	施術所にて実施される3年次鍼灸臨床実習での鍼灸施術を衛生的で安全に行うことができる。	実習
	34	後期期末試験シミュレーション		実習
	35	後期期末試験シミュレーション		実習
	36	期末 (到達目標達成確認) 試験	※「施術所における臨床実習前施術実技試験」として実施	試験

【科目】 臨床実習Ⅱ 【早期臨床体験実習Ⅱ】

【基本情報】

配当年次	2 学年	主担当教員	三浦 洋	
単位数	1 単位		(みうら ひろし)	
開講学期	通期	授業形態・回数	臨床実習	45 時間

【授業情報】

授業概要	学内の附属施術所や外部の施術所、呉竹メディカルクリニック、学外の診療所、大学附属病院などの現代西洋医学の医療施設、および介護関連施設（デイケア、デイサービス等）、スポーツ関連施設での見学実習を行う。医療・介護・スポーツ現場の見学を通じて、医療人としてのはり師・きゅう師の役割について理解し、どのように医療に係わるべきかを学習することを目的とする。
授業の一般目標 (GIO)	将来はり師、きゅう師として自立するために、事業形態や事業内容について見学・体験をすることにより、将来の活躍の場となる自分の姿を想起し、医療人としての自覚を高める。また臨床に携わる者としての態度・習慣、ならびに臨床に必要な知識と技能の基本を習得する。

【担当教員から】

教科書	—
参考書	—
成績評価基準	シラバスで明示した到達目標を達成しているかを下記の内容を総合的に判断する。 自ら選択した全ての事業所への出席を必要とする。
成績評価方法	成績評価の基準（評価割合：％） 1. レポート提出と実習参加：100％
履修の条件 留意点	レポート提出と実習参加の評価を合計して 60％以上により履修とする。 この科目は専門分野・臨床実習・臨床実習Ⅱの単位として認定される。
担当教員	★授業時間外に必要な学習内容（担当者からのメッセージ） 1. 実習先での行動内容の確認や身だしなみのチェックは事前に行うこと。 2. 実習終了後は、行動や実習内容等を各自で十分に振り返り、ポートフォリオの作成を行い、後日指示に従って提出すること。 3. 全ての臨床実習の出席前に欠席・遅刻となる事象が発生した場合は、事象が判明した時点で直ちに担任・副担任・臨床実習責任者へ連絡すること。 4. 自身の健康管理に留意すること。 5. 各自に手渡される「臨床実習日一覧表」を確認して、指定された実習日・集合時間に遅れることの無いよう実習先に到着すること。
オフィスアワー	質問がある場合は、事前にご相談ください。



【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SBOs)	講義形態
通期		<p>1. 学外施設での見学実習</p> <p>①学外での診療所・病院での外来 見学実習</p> <p>②スポーツ関連施設での見学実習</p> <p>③介護老人保健施設での見学実習</p> <p>④スポーツ関連イベントにおけるケアス テーション活動での見学実習</p> <p>1) 2～8時間/施設(イベント)の見学 実習を行う。</p> <p>2) 指導者の下で、施術、一般業務 を観察する。また、施設内の付帯 業務の補助、状況によっては施術 補助を行う。</p> <p>3) 指定のポートフォリオを作成し 提出する。</p> <p>2. カンファレンス ※指導担当者が必要と判断した場 合に実施する。</p> <p>1) 観察・施術補助した症例あるい は与えられた課題疾患について 調べる。</p> <p>2) 指導者と症例あるいは課題につ いて討論して意見交換を行う。</p> <p>3) 指定のポートフォリオを作成し 提出する。</p> <p>3. 振り返り</p> <p>1) 上記 1、2 で提出したポートフォ リオから指定された課題につい てKJ法により各自抽出し、グル ープ内で共通事項をまとめる。</p> <p>2) 課題について発表する。</p> <p>3) 討論して意見交換を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・早期臨床体験実習Ⅱの意義と目的を理解できる。 ・能動的・積極的な姿勢で実習に参加できる。 ・体験して感じたこと振り返り、考える習慣を身 につけることができる。 ・医療人として相応しい行動を実践できる。 ・各施設の役割、地域における医療・福祉体制を 理解できる。 ・患者、利用者、参加者、家族、スタッフと積極 的かつ適切なコミュニケーションを図ることが できる。 ・患者、利用者、参加者、家族、スタッフに対し、 適切な接遇・共感的な態度を表現できる。 ・各施設・現場の専門家・スタッフの役割を理解 し、共に働く意識を涵養できる。 ・医療者・患者・利用者関係における多様なコミ ュニケーションの重要性について討議できる。 	臨床実習 又は演習

【科目】 臨床実習Ⅲ 【外部施設臨床実習】

【基本情報】

配当年次	2 学年	主臨床実習調整者	西岡 岳之	
単位数	1 単位		(にしおか たけゆき)	
開講学期	通期	授業形態・回数	臨床実習	45 時間

【授業情報】

授業概要	<p>市中のあはき治療院での見学実習を行う。医療人としてのはり師・きゅう師の役割について理解し、どのように施術に係わるべきかを学習することを目的とする。</p> <p>実務経験のある臨床実習指導者講習会修了の開業鍼灸師の指導のもと臨床実習を行う。</p>
授業の一般目標 (GIO)	<p>将来はり師・きゅう師として自立するために、事業形態や事業内容について見学・体験をすることにより、将来の活躍の場となる自分の姿を想起し、医療人としての自覚を高める。また臨床に携わる者としての態度・習慣、ならびに臨床に必要な知識と技能の基本を習得する。</p>

【担当教員から】

教科書	—
参考書	—
成績評価基準	シラバスで明示した到達目標を達成しているかを下記の内容を総合的に判断する。 自ら選択した全ての事業所への出席を必要とする。
成績評価方法	成績評価の基準 (評価割合 : %) 1. レポート提出と実習参加 : 100%
履修の条件 留意点	レポート提出と実習参加の評価を合計して 60% 以上により履修とする。 この科目は専門分野・臨床実習・臨床実習Ⅲの単位として認定される。
担当教員	<p>★授業時間外に必要な学習内容 (担当者からのメッセージ)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習先での行動内容の確認や身だしなみのチェックは事前に行うこと。 2. 実習終了後は、行動や実習内容等を各自で十分に振り返り、ポートフォリオの作成を行い、後日指示に従って提出すること。 3. 全ての臨床実習の出席前に欠席・遅刻となる事象が発生した場合は、事象が判明した時点で直ちに担任・副担任・臨床実習責任者へ連絡すること。 4. 自身の健康管理に留意すること。 5. 各自に手渡される「臨床実習日一覧表」を確認して、指定された実習日・集合時間に遅れることの無いよう実習先に到着すること。
オフィスアワー	質問がある場合は、事前にご相談ください。



【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SBOs)	講義形態
通期		<p>1. 事前カンファレンス</p> <p>1) 市中施術所について、紹介動画、ホームページなどで事前学習をする。(外観、1日の業務の流れ、施術法や治療機器など)</p> <p>2) 事前学習をもとに、自らの将来像を考え、実習先を選択する。</p> <p>3) 実習の注意点、持ち物、レポート課題、緊急時の連絡を確認する。</p> <p>2. 市中施術所での見学実習</p> <p>1) 4～8時間/施設の実習を行う。</p> <p>2) 指導者の下で、施術、業務を観察する。また、施術所内の付帯業務の補助、状況によっては施術補助を行う。</p> <p>3) 指定のポートフォリオを作成し提出する。</p> <p>3. カンファレンス</p> <p>※指導担当が必要と判断した場合に実施する。</p> <p>1) 観察・施術補助した症例あるいは与えられた課題疾患について調べる。</p> <p>2) 指導者と症例あるいは課題について討論して意見交換を行う。</p> <p>3) 指定のポートフォリオを作成し提出する。</p> <p>4. 振り返り</p> <p>提出したポートフォリオを学内の臨床実習担当者と意見交換し評価を受ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外部施設臨床実習の意義と目的を理解できる。 ・ 能動的・積極的な姿勢で実習に参加できる。 ・ 体験して感じたこと振り返り、考える習慣を身につけることができる。 ・ 医療人として相応しい行動を実践できる。 ・ 各施設の役割、地域における医療・福祉体制を理解できる。 ・ 患者、利用者、参加者、家族、スタッフと積極的かつ適切なコミュニケーションを図ることができる。 ・ 患者、利用者、参加者、家族、スタッフに対し、適切な接遇・共感的な態度を表現できる。 ・ 各施設・現場の専門家・スタッフの役割を理解し、共に働く意識を涵養できる。 ・ 医療者・患者・利用者関係における多様なコミュニケーションの重要性について討議できる。 	臨床実習 又は演習

【科目】 臨床総合講座Ⅱ 【医学史（はき史を含む）とはきの展望】

【基本情報】

配当年次	2 学年	担当教員	足立 昌彦	
単位数	1 単位		(あだち まさひこ)	
開講学期	1 期	授業形態・回数	講義	12 回

【授業情報】

授業概要	中国医学史、西洋医学史、日本医学史を学び、あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう（以下、あはき）の歴史を日本と諸外国の歴史とを比較しながら学んでいく。また、医療従事者としての自覚と責任感を持てるよう、職業倫理を学んでいく。
授業の一般目標 (GIO)	代替医療や統合医療におけるあはきの位置づけや役割を理解し、あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師としてわが国の衛生状態の向上の一助となるために、医療の歴史についての知識を習得する。

【担当教員から】

教科書	<ol style="list-style-type: none"> 「医療概論」；東洋療法学校協会編，医歯薬出版（株） 「衛生学・公衆衛生学」第2版；東洋療法学校協会編，医歯薬出版（株） 「新版 東洋医学概論」；東洋療法学校協会編，医歯薬出版（株）
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 「医学史への誘い」；酒井シヅ著，診療新社 「社会あはき学」；東洋療法学校協会編，医道の日本社
成績評価基準	シラバスで明示した到達目標を達成しているかを、年間の定期試験で評価する。
成績評価方法	成績評価の基準（評価割合：％） 期末（到達目標達成確認）試験（年度末試験含む）：100％
履修の条件 留意点	期末（到達目標達成確認）試験の評価を合計して60％以上と年度末試験の合格により履修とする。【年度末試験対象科目】この科目は専門分野・総合領域・臨床総合講座Ⅱの単位として認定されます。
担当教員	★授業時間外に必要な学習内容（担当者からのメッセージ）
	<ol style="list-style-type: none"> HRにて教科書や配布プリント等を用いて、講義形式で行います。 授業ではノートを取ったり、プリントに記入したりしながら、話をよく聴いてください。 授業中は机の上に飲み物や食べ物を置かないでください。 携帯電話の電源は切ってください。どうしても携帯電話の使用が必要な場合は申し出てください。 欠席した場合の配付資料はクラスメートにもらってもらるか、次の授業までに教員室にもらいに来てください。
オフィスアワー	授業開講日の12:45～13:00 3F教員室

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標（SBOs）	講義形態
1期	1	中国の医学史①	鍼・灸・按摩・湯液の起源を述べられる。	講義
	2	中国の医学史②	夏～春秋時代から清の時代以降までの中国における医学の歴史を説明できる。	講義
	3	日本の医学史①	奈良時代以前から明治時代以降のわが国の医学の歴史を説明できる。	講義
	4	日本の医学史②	わが国のあはきの歴史を説明できる。	講義
	5	あはきの歴史	わが国に渡ってから発展した鍼術、灸術の歴史を説明できる。 わが国に渡ってから発展したあん摩術、マッサージ術の歴史を説明できる。 指圧の歴史を説明できる。	講義
	6	西洋医学史①	古代ギリシャ・ローマ時代から近代ヨーロッパにおける医学の歴史を説明できる。	講義
	7	西洋医学史②		講義
	8	西洋医学史③		講義
	9	代替医療・統合医療	代替医療・統合医療の概要を理解することができる。	講義
	10	医療連携について	地域包括ケアシステムの概要を理解することができる。 地域における医療との連携の重要性を理解することができる。	講義
	11	期末(到達目標達成確認)試験		試験
	12	期末試験の解説・解答 まとめ		講義
	13	年度末試験		試験

【科目】 形態機能学Ⅲ【人体構造学演習】

【基本情報】

配当年次	3 学年	担当教員	山村 聡	
単位数	3 単位		(やまむら さとし)	
開講学期	1～3 期	授業形態・回数	講義演習	36 回

【授業情報】

授業概要	生体の構造機能を学ぶことは医学的な専門科目を学ぶ上での基礎となり、正常な構造機能が破綻した状態である疾病を理解するための基盤として重要であるため、人体の正常な構造機能を学んでいく。
授業の一般目標 (GIO)	人が罹患する疾病を理解するために、医療従事者の共通用語である人体の各器官の機能について理解するとともに、その評価方法についても学習する。

【担当教員から】

教科書	1. 「解剖学」第2版 東洋療法学校協会編 医歯薬出版(株)
参考書	1. 「人体の正常構造と機能」 日本医事新報社
成績評価基準	シラバスで明示した到達目標を達成しているかを、期末試験、卒業試験を総合的に評価する。
成績評価方法	成績評価の算定方法(評価割合: %) 期末(到達目標達成確認)試験・卒業試験: 100%
履修の条件 留意点	期末(到達目標達成確認)試験、卒業試験を合計して60%以上で履修とする。この科目は専門基礎分野・人体の構造と機能・形態機能学Ⅲの単位として認定されます。
担当教員	★授業時間外に必要な学習内容(担当者からのメッセージ) HRでの講義形式にて、機能・用語の理解に重点を置き、解説を行います。成績不良者もしくは希望者については適宜補習を行う予定です。授業中の私語、携帯電話などの不必要な使用に関しては対処します。
オフィスアワー	授業開講日の12:45~13:00 3F教員室



【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SBOs)	講義形態
1期	1	細胞の構造・細胞分裂と遺伝子	細胞の構造と細胞分裂・遺伝子について説明することができる	講義
	2	組織 1 (上皮組織)	上皮組織について器官ごとの特徴を説明することができる	講義
	3	組織 2 (結合組織)	結合組織について器官ごとの特徴を説明することができる	講義
	4	組織 3 (筋組織)	平滑筋・骨格筋・心筋の特徴を説明することができる	講義
	5	組織 4 (神経組織)	中枢神経・末梢神経の特徴を概説することができる	講義
	6	感覚器系	感覚器 (視覚器・平衡聴覚器・皮膚) について概説できる	講義
	7	内臓器総論	中腔性臓器・実質性臓器について器官ごとの特徴を説明できる	講義
	8	運動器系 1	体幹の骨・筋・神経・循環・運動について概説できる	講義
	9	運動器系 2	上肢の骨・筋・神経・循環・運動について概説できる	試験
	10	運動器系 3	下肢の骨・筋・神経・循環・運動について概説できる	講義
	11	期末(到達目標達成確認)試験		試験
	12	期末試験の解説・解答・まとめ	到達目標達成のために各自で評価を行う	
2期	13	循環器系の構造 1	血管系概論・心臓について説明できる	講義演習
	14	循環器系の構造 2	動脈系・静脈系・リンパ系・胎児循環について説明できる	講義演習
	15	呼吸器系の構造	呼吸器系 (鼻腔・喉頭・気管・肺) について説明できる	講義演習
	16	消化器系の構造 1	消化器系 (中腔性臓器) について説明できる	講義演習
	17	消化器系構造 2	消化器系 (実質性臓器) について説明できる	講義演習
	18	泌尿器系の構造	泌尿器 (腎臓・尿管・膀胱・尿道) について説明できる	講義演習
	19	生殖器系の構造	男性生殖器・女性生殖器について説明できる	講義演習
	20	内分泌系の構造	内分泌器系について説明できる	講義演習
	21	感覚器系の構造	感覚器系について説明できる	講義演習
	22	体幹部の構造	体幹の運動器について説明できる	講義演習
	23	上肢の構造	上肢の運動器について説明できる	講義演習
3期	24	下肢の構造	下肢の運動器について説明できる	講義演習
	25	頭部・頸部の構造	顔面部・頸部の運動器について説明できる	講義演習
		到達目標達成試験 (一次卒業試験)		試験
	26	試験の解説・解答・まとめ	到達目標達成のために各自で評価を行う	
	27	問題演習①	四者択一の解答を導き出すことができる。 誤解答の場合、その理由を理解することができる。	演習
	28	問題演習②		演習
	29	問題演習③		演習
	30	問題演習④		演習
	31	問題演習⑤		演習
	32	問題演習⑥		演習
33	問題演習⑦	演習		
	到達目標達成試験 (二次卒業試験)		試験	
	34	試験の解説・解答・まとめ	到達目標達成のために各自で評価を行う	
	35	まとめ演習 1	四者択一の解答を導き出すことができる。	演習
	36	まとめ演習 2		演習

【科目】 形態機能学Ⅳ【人体機能学演習】

【基本情報】

配当年次	3学年	担当教員	相田 典子	
単位数	3単位		(あいだ のりこ)	
開講学期	1～3学期	授業形態・回数	講義演習	36回

【授業情報】

授業概要	生体の機能を学ぶことは医学的な専門科目を学ぶ上での基礎となり、正常な機能が破綻した状態である疾病を理解するための基盤として重要であるため、人体の正常な機能を学んでいく。
授業の一般目標 (GIO)	人が罹患する疾病を理解するために、医療従事者の共通用語である人体の各器官の機能について学習するとともに、その評価方法についても学習する。

【担当教員から】

教科書	1. 「生理学」第2版 東洋療法学校協会編 医歯薬出版(株)
参考書	1. 「標準生理学」 医学書院 2. 「人体の正常構造と機能」 日本医事新報社
成績評価基準	シラバスで明示した到達目標を達成しているかを、期末試験、卒業試験を総合的に評価する。
成績評価方法	成績評価の算定方法(評価割合: %) 期末(到達目標達成確認)試験の成績: 100%
履修の条件 留意点	期末(到達目標達成確認)試験60%以上と卒業試験の合格により履修とする。この科目は専門基礎分野・人体の構造と機能・形態機能学Ⅳ・人体機能学演習の単位として認定されます。
担当教員	★授業時間外に必要な学習内容(担当者からのメッセージ) HRでの講義形式にて、機能・用語の理解に重点を置き、解説を行います。 授業内容をしっかりメモするのはもちろん、授業をよく聴いてください。
オフィスアワー	授業開講日の12:45～13:00 3F教員室



【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SBOs)	講義形態	
1期	1	身体活動の協調 1	生体の適応・ホメオスタシス・循環調節・体液・血糖値・体温・バイオリズムについて各器官系について説明できる	講義	
	2	身体活動の協調 2		講義	
	3	身体活動の協調 3		講義	
	4	生体の防御機構 1	生体の防御機構について説明できる	講義	
	5	生体の防御機構 2		講義	
	6	代謝 1	A T P 産生の過程と運動の仕組みを説明できる	講義	
	7	代謝 2	栄養・代謝・産熱について説明できる	講義	
	8	神経 1	神経系の機能を説明できる	講義	
	9	神経 2		試験	
	10	神経 3		講義	
		11	期末(到達目標達成確認)試験		試験
		12	期末試験の解説・解答・まとめ	到達目標を達成するために各自で評価を行う	実習
2期	13	生理学の基礎	体液のpH・浸透圧について各器官の働きを説明できる	講義演習	
	14	循環のしくみ 1	血液と循環器系の働きを説明できる	講義演習	
	15	循環のしくみ 2			
	16	呼吸のしくみ	呼吸器系の働きを説明できる	講義演習	
	17	消化と吸収のしくみ	消化器系の働きを説明できる	講義演習	
	18	腎臓のはたらき	泌尿器系の働きを説明できる	講義演習	
	19	内分泌のはたらき	内分泌系の働きを説明できる	講義演習	
	20	神経のはたらき 1	中枢神経系・末梢神経系の働きを説明できる	講義演習	
	21	神経のはたらき 2		講義演習	
	22	運動 1	筋と運動のしくみを説明できる	講義演習	
	23	運動 2		講義演習	
3期	24	感覚 1	感覚について説明できる	講義演習	
	25	感覚 2		講義演習	
		到達目標達成試験 (一次卒業試験)		試験	
	26	試験の解説・解答・まとめ	到達目標達成のために各自で評価を行う	実習	
	27	問題演習①	四者択一の解答を導き出すことができる。 誤解答の場合、その理由を理解することができる。	演習	
	28	問題演習②		演習	
	29	問題演習③		演習	
	30	問題演習④		演習	
	31	問題演習⑤		演習	
	32	問題演習⑥		演習	
33	問題演習⑦	演習			
	到達目標達成試験 (二次卒業試験)				
	34	試験の解説・解答・まとめ	到達目標達成のために各自で評価を行う	実習	
	35	まとめ演習 1	四者択一の解答を導き出すことができる	演習	
	36	まとめ演習 2			

【科目】臨床医学Ⅱ【病理学概論】

【基本情報】

配当年次	3学年	担当教員	李 英俊	
単位数	1単位		(い よんじゅん)	
開講学期	1学期	授業形態・回数	講義	12回

【授業情報】

授業概要	病理学とは、生体に起こる病的な状態、すなわち疾病の本態を解明する学問です。疾病はその成り立ちから、先天異常、代謝障害、循環障害、炎症、腫瘍の五つの病変カテゴリーに分類されますが、それらの病変カテゴリーを学び、疾病を起こす原因、それぞれの疾病で生じる変化、その経過、疾病がたどる転帰を総合的にとらえるように学んでいく。
授業の一般目標 (GIO)	疾病の全体像、すなわち原因、経過、治療法、予後、および結末を総合的に理解するために、疾病における形態と機能の変化、および本態を学習する。

【担当教員から】

教科書	1. 「病理学概論」第2版；東洋療法学校協会編, 医歯薬出版(株)
参考書	
成績評価基準	シラバスで明示した到達目標を達成しているかを、期末試験で評価する。
成績評価方法	成績評価の算定方法(評価割合：%) 定期(到達目標達成確認)試験：100%
履修の条件 留意点	定期(到達目標達成確認)試験評価で60%以上で履修とする。この科目は専門基礎分野・疾病の成り立ちとその予防及び回復の促進・臨床医学Ⅱの単位として認定されます。
担当教員	★授業時間外に必要な学習内容(担当者からのメッセージ) 授業では、ノートをとるだけでなく、話をよく聞くことに努めてください。疾病各論の基礎となる科目ですので、各論の理解のためにも十分な学習が必要です。そのためにも、教科書は講義内容が理解できるようによく読んで準備してください。
オフィスアワー	授業開講日の12:45~13:00 3F教員室



【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SBOs)	講義形態
1期	1	病理学とはどのような学問か 疾病についての基本的な考え方 病因① 内因(素因・遺伝・内分泌・免疫・心因性疾患)	病理学とはどのような学問かを理解できる。 疾病についての基本的な考え方を説明できる。 内因についてそれぞれ説明できる。	講義
	2	免疫異常・アレルギー 1)免疫の一般 2)液性免疫と細胞性免疫 3)アレルギーの分類 4)免疫不全 5)自己免疫疾患	免疫異常・アレルギーについてそれぞれ説明できる。	講義
	3	病因② 外因 1)栄養素の供給障害 2)物理的病因 3)化学的病因 4)生物学的病因 5)小児の疾患	外因についてそれぞれ説明できる。	講義
	4	循環障害① 1)ヒトの循環器系 2)充血・うっ血 3)貧血・虚血 4)出血	循環障害についてそれぞれ説明できる。	講義
	5	循環障害② 5)血栓症 6)塞栓症 7)梗塞 8)水腫・浮腫・脱水 9)ショック		講義
	6	退行性病変 1)萎縮 2)変性 3)壊死と死 進行性病変 1)肥大と増殖 2)再生 3)化生 4)移植 5)創傷治癒・組織内異物の処理	退行性病変についてそれぞれ説明できる。 進行性病変についてそれぞれ説明できる。	講義
	7	炎症 1)炎症の一般 2)炎症の分類	炎症についてそれぞれ説明できる。	講義
	8	腫瘍① 1)腫瘍の一般	腫瘍についてそれぞれ説明できる。	講義
	9	腫瘍② 2)良性腫瘍 3)悪性腫瘍		講義
	10	先天性異常 1)先天性異常総論 2)遺伝性疾患 3)染色体異常	先天性異常について説明できる。 遺伝性疾患について説明できる。 染色体異常について説明できる。	講義
	11	期末(到達目標達成確認)試験		試験
	12	期末試験の解説・解答 まとめ		講義

【科目】臨床医学Ⅲ【臨床医学各論演習】

【基本情報】

配当年次	3学年	担当教員	島村 聡	
単位数	2単位		(しまむら さとし)	
開講学期	2・3期	授業形態・回数	講義	24回

【授業情報】

授業概要	今までに学んだ「臨床医学各論」をもとに、国家試験に出題される範囲を中心に、講義と問題演習を行い、合格する為の力を身につけてもらいます。
授業の一般目標 (GIO)	国家試験に合格するために、臨床医学各論について総括し、理解を深め、国家試験レベルの問題に正しく解答できる力を身につける。

【担当教員から】

教科書	「臨床医学各論」東洋療法学校協会編 医歯薬出版(株)
参考書	
成績評価基準	シラバスで明示した到達目標を達成しているかを、期末試験に代わって実施される三次卒業試験の「臨床医学各論」の範囲の結果で評価する。
成績評価方法	成績評価の算定基準(評価割合:%) 1. 期末(到達目標達成確認)試験:100%
履修の条件 留意点	期末(到達目標達成確認)試験に代わって実施される卒業試験の「臨床医学各論」の範囲の評価60%以上により履修とする。【卒業試験対象科目】この科目は疾病の成り立ち、その予防及び回復の促進・臨床医学Ⅲの単位として認定されます。
担当教員	★授業時間外に必要な学習内容(担当者からのメッセージ)
	1. 今までに学んだ「臨床医学各論」の内容を理解している前提で授業を行うので、授業の前までに復習しておくこと。 2. 授業前に各単元の問題を配付し、各自事前に問いてきたものを基に、総復習をしていきます。
オフィスアワー	授業開講日の12:45~13:00 3F教員室

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標（SBOs）	講義形態	
2・3 期	1	感染症のまとめ	感染症について概説できる。	講義・演習	
	2	消化器疾患のまとめ①	消化器疾患について概説できる。	講義・演習	
	3	消化器疾患のまとめ②		講義・演習	
	4	呼吸器疾患のまとめ	呼吸器疾患について概説できる。	講義・演習	
	5	循環器疾患のまとめ	循環器疾患について概説できる。	講義・演習	
	6	内分泌・アレルギー疾患のまとめ①	内分泌について概説できる。	講義・演習	
	7	内分泌・アレルギー疾患のまとめ②	アレルギー疾患について概説できる。	講義・演習	
	8	腎・尿路疾患のまとめ	腎・尿路疾患について概説できる。	講義・演習	
	9	神経系疾患のまとめ①	神経系疾患について概説できる。	講義・演習	
	10	神経系疾患のまとめ②		講義・演習	
	11	運動器疾患のまとめ①	運動器疾患について概説できる。	講義・演習	
	12	運動器疾患のまとめ②		講義・演習	
	13	外科総論のまとめ	外科総論について概説できる。	講義・演習	
	14	麻酔・ペインクリニックのまとめ	麻酔・ペインクリニックについて概説できる。	講義・演習	
			到達目標達成確認試験 (一次卒業試験)		試験
	15	問題演習①	四者択一問題の解答を導き出すことができる。 誤解答の場合、その理由を理解することができる。	演習	
	16	問題演習②		演習	
	17	問題演習③		演習	
	18	問題演習④		演習	
	19	問題演習⑤		演習	
	20	問題演習⑥		演習	
	21	問題演習⑦		演習	
	22	問題演習⑧		演習	
	23	問題演習⑨		演習	
		到達目標達成確認試験 (二次卒業試験)			試験
24	まとめ		講義		

【科目】臨床医学Ⅳ【臨床医学総論演習】

【基本情報】

配当年次	3学年	担当教員	稲葉 千里	
単位数	2単位		(いなば ちさと)	
開講学期	2・3期	授業形態・回数	講義	24回

【授業情報】

授業概要	今までに学んだ「臨床医学総論」をもとに、国家試験に出題される範囲を中心に、講義と問題演習を行い、合格する為の力を身につけてもらいます。
授業の一般目標 (GIO)	国家試験に合格するために、臨床医学総論について総括し、理解を深め、国家試験レベルの問題に正しく解答できる力を身につける。

【担当教員から】

教科書	「臨床医学総論」東洋療法学校協会編 医歯薬出版(株)
参考書	
成績評価基準	シラバスで明示した到達目標を達成しているかを、期末試験に代わって実施される卒業試験の「臨床医学総論」の範囲の結果で評価する。
成績評価方法	成績評価の算定基準(評価割合:%) 1. 期末(到達目標達成確認)試験:100%
履修の条件 留意点	期末(到達目標達成確認)試験に代わって実施される卒業試験の「臨床医学総論」の範囲の評価60%以上により履修とする。【卒業試験対象科目】この科目は専門基礎分野・疾病の成り立ち、その予防及び回復の促進・臨床医学Ⅳの単位として認定されます。
担当教員	★授業時間外に必要な学習内容(担当者からのメッセージ) 1. 今までに学んだ「臨床医学総論」の内容を理解している前提で授業を行うので、授業の前までに復習しておくこと。 2. 授業前に各単元の問題を配付し、各自事前に問いてきたものを基に、総復習をして行きます。
オフィスアワー	授業開講日の12:45~13:00 3F教員室



【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SBOs)	講義形態	
2・3 期	1	診察の概要・診察の方法	診察の概要・診察の方法について概説できる。	講義・演習	
	2	生命徴候の診察	生命徴候(バイタルサイン)について概説できる。	講義・演習	
	3	全身の診察①	顔貌について概説できる。 精神状態について概説できる。	講義・演習	
	4	全身の診察②	言語の理解や発語について概説できる。 身体計測、身体状況について概説できる。	講義・演習	
	5	全身の診察③	姿勢・体位・歩行について概説できる。 体表の診察について概説できる。	講義・演習	
	6	局所の診察①	頭部から趾先まで各局所の診察についてそれぞれ概説できる。	講義・演習	
	7	局所の診察②		講義・演習	
	8	神経系の診察①	神経系の診察(各種検査法)について概説できる。	講義・演習	
	9	神経系の診察②		講義・演習	
	10	神経系の診察③		講義・演習	
	11	運動機能検査	運動機能検査について概説できる。	講義・演習	
	12	その他の診察	一般検査について概説できる。 血液生化学検査について概説できる。 生理学的検査について概説できる。 画像診断の概要について概説できる。	講義・演習	
	13	臨床検査法	臨床検査法について概説できる。	講義・演習	
	14	治療学	治療法の種類について概説できる。 各種療法について概説できる。	講義・演習	
			到達目標達成確認試験 (一次卒業試験)		試験
	15	問題演習①	四者択一問題の解答を導き出すことができる。 誤解答の場合、その理由を理解することができる。	演習	
	16	問題演習②		演習	
	17	問題演習③		演習	
	18	問題演習④		演習	
	19	問題演習⑤		演習	
	20	問題演習⑥		演習	
	21	問題演習⑦		演習	
	22	問題演習⑧		演習	
	23	問題演習⑨		演習	
		到達目標達成確認試験 (二次卒業試験)		試験	
24	まとめ			講義	

【科目】疾病治療論Ⅱ【リハビリテーション医学概論Ⅱ】

【基本情報】

配当年次	3学年	担当教員	福本 彩季	
単位数	1単位		(ふくもと あき)	
開講学期	1期	授業形態・回数	講義	12回

【授業情報】

授業概要	リハビリテーションは運動機能、日常生活活動の能力の障害を回復させ、社会・環境への適応を促進するために必要な第4の医学と呼ばれる。ここでは、リハビリテーション医学を理解し、障害と障害者への対応の概念を疾患別に学ぶ。
授業の一般目標 (GIO)	リハビリテーションの概念を理解するために、疾患別の障害の定義、分類について習得する。

【担当教員から】

教科書	1. 『リハビリテーション医学』 学校協会編
参考書	1. 『標準リハビリテーション医学』 医学書院 2. 『理学療法ハンドブック』 協同医書出版社 3. 『障害と活動の測定・評価ハンドブック』 南江堂
成績評価基準	シラバスで明示した到達目標を達成しているかを、定期試験を総合的に評価する。
成績評価方法	成績評価の算定方法（評価割合：％） 定期（到達目標達成確認）試験：100％
履修の条件 留意点	定期（到達目標達成確認）試験の評価を合計して60％以上で履修とする。この科目は専門基礎分野・疾病の成り立ちとその予防及び回復の促進・疾病治療論Ⅱ・リハビリテーション医学概論Ⅱの単位として認定されます。
担当教員	★授業時間外に必要な学習内容（担当者からのメッセージ） リハビリテーション医学は「人間たるにふさわしい状態になる」という意味です。中世では「名誉の回復」という法律用語として使用されてきました。従って、本学問は「人間たるにふさわしい状態になる」ために行うアプローチ（対応）の体系です。疾病や障害によって、出来ないことできるようになるといった単なる機能の回復という狭い意味ではなく、権利・資格・名誉の回復など人間らしく生きる権利の回復を目指すものです。本科目を通じて、疾病や障害をもちながらもそこで生活する「その人」とどう関わり、その関わりから何を学ぶかをという基本姿勢を軸に学習してください。 また、授業毎に前回授業分の小テストを実施し、授業の習熟度を確認します。
オフィスアワー	授業開講日の12：45～13：00 3F教員室



【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標（SBOs）	講義形態
1期	1	各疾患のリハビリテーション	脳卒中のリハビリテーションが説明できる。	講義
	2	各疾患のリハビリテーション	脳卒中のリハビリテーションが説明できる。	講義
	3	各疾患のリハビリテーション	脊髄損傷のリハビリテーションが説明できる。	講義
	4	各疾患のリハビリテーション	脊髄損傷のリハビリテーションが説明できる。	講義
	5	各疾患のリハビリテーション	切断のリハビリテーションが説明できる。	講義
	6	各疾患のリハビリテーション	小児のリハビリテーションが説明できる。	講義
	7	各疾患のリハビリテーション	小児のリハビリテーションが説明できる。	講義
	8	各疾患のリハビリテーション	パーキンソン病のリハビリテーションが説明できる。	講義
	9	各疾患のリハビリテーション	呼吸器疾患のリハビリテーションが説明できる。	講義
	10	各疾患のリハビリテーション	心疾患のリハビリテーションが説明できる。	講義
	11	期末(到達目標達成確認)試験		試験
	12	期末試験の解説・解答 まとめ		講義

【科目】 疾病治療論Ⅲ【リハビリテーション医学概論演習】

【基本情報】

配当年次	3 学年	担当教員	福本 彩季	
単位数	2 単位		(ふくもと あき)	
開講学期	2・3 期	授業形態・回数	講義	24 回

【授業情報】

授業概要	今までに学んだ「リハビリテーション医学概論Ⅰ・Ⅱ」をもとに、国家試験に出題される範囲を中心に、講義と問題演習を行い、合格する為の力を身につけてもらいます。
授業の一般目標 (GIO)	国家試験に合格するために、リハビリテーション医学について総括し、理解を深め、国家試験レベルの問題に正しく解答できる力を身につける。

【担当教員から】

教科書	『リハビリテーション医学』東洋療法学校協会編 医歯薬出版(株)
参考書	『標準リハビリテーション医学』医学書院
成績評価基準	シラバスで明示した到達目標を達成しているかを、期末試験に代わって実施される卒業試験の「リハビリテーション医学」の範囲の結果で評価する。
成績評価方法	成績評価の算定基準(評価割合: %) 期末(到達目標達成確認)試験: 100%
履修の条件 留意点	期末(到達目標達成確認)試験に代わって実施される卒業試験の「リハビリテーション医学」の範囲の評価60%以上により履修とする。【卒業試験対象科目】この科目は専門基礎分野・疾病の成り立ち、その予防及び回復の促進・疾病治療論Ⅲ・リハビリテーション医学概論Ⅲの単位として認定されます。
担当教員	★授業時間外に必要な学習内容(担当者からのメッセージ)
	1. 今までに学んだ「リハビリテーション医学概論Ⅰ・Ⅱ」の内容を理解している前提で授業を行うので、授業の前までに復習しておくこと。 2. 授業前に各単元の問題を配付し、各自事前に問いてきたものを基に、総復習をしていきます。
オフィスアワー	授業開講日の12:45~13:00 3F教員室

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SBOs)	講義形態	
2・3 期	1	リハビリテーションの概要	リハビリテーションの基本理念について概説できる。 国際生活機能分類について概説できる。	講義・演習	
	2	リハビリテーション医学と医療	リハビリテーション医学の概要について概説できる。	講義・演習	
	3	障害の評価①	心身機能・身体構造の評価について概説できる。 活動の評価について概説できる。 合併症の評価について概説できる。	講義・演習	
	4	障害の評価②	運動年齢テストについて概説できる。 高次脳機能評価について概説できる。 摂食嚥下障害の評価について概説できる。	講義・演習	
	5	医学的リハビリテーション	理学療法について概説できる。 作業療法について概説できる。 言語聴覚療法について概説できる。 装具療法について概説できる。	講義・演習	
	6	脳卒中のリハビリテーション	脳卒中のリハビリテーションについて概説できる。	講義・演習	
	7	脊髄損傷のリハビリテーション	脊髄損傷のリハビリテーションについて概説できる。	講義・演習	
	8	切断のリハビリテーション	切断のリハビリテーションについて概説できる。	講義・演習	
	9	小児のリハビリテーション	小児のリハビリテーションについて概説できる。	講義・演習	
	10	骨関節疾患、関節リウマチ のリハビリテーション	骨関節疾患のリハビリテーションについて概説できる。 関節リウマチのリハビリテーションについて概説できる。	講義・演習	
	11	末梢神経障害のリハビリテーション	末梢神経障害のリハビリテーションについて概説できる。	講義・演習	
	12	パーキンソン病、呼吸器、心疾患 のリハビリテーション	パーキンソン病のリハビリテーションについて概説できる。 呼吸器のリハビリテーションについて概説できる。 心疾患のリハビリテーションについて概説できる。	講義・演習	
	13	運動学の基礎、身体各部の機能	運動学の基礎について概説できる。 身体各部の機能について概説できる。	講義・演習	
	14	正常歩行と異常歩行	正常歩行について概説できる。 異常歩行について概説できる。	講義・演習	
			到達目標達成確認試験 (一次卒業試験)		試験
	15	問題演習①	四者択一問題の解答を導き出すことができる。 誤解答の場合、その理由を理解することができる。	演習	
	16	問題演習②		演習	
	17	問題演習③		演習	
	18	問題演習④		演習	
	19	問題演習⑤		演習	
	20	問題演習⑥		演習	
	21	問題演習⑦		演習	
	22	問題演習⑧		演習	
	23	問題演習⑨		演習	
		到達目標達成確認試験 (二次卒業試験)		試験	
24	まとめ			講義	

【科目】 はき理論Ⅱ 【はき理論Ⅱ】

【基本情報】

配当年次	3 学年	担当教員	武井 良之	
単位数	1 単位		(たけい よしゆき)	
開講学期	1 期	授業形態・回数	講義	12 回

【授業情報】

授業概要	鍼灸刺激に対する生体の反応を学ぶことで鍼灸施術の治効を理解する。刺激に対する感受性、反応(反射)、などの自然治癒力にかかわる西洋医学的な生体メカニズムを理解する
授業の一般目標 (GIO)	鍼灸施術の刺激に対する生体反応理解するために、治効メカニズムを学修する。

【担当教員から】

教科書	1. はりきゆう理論 東洋療法学校協会編 医道の日本社
参考書	1. 鍼灸医療安全ガイドライン 医歯薬出版(株)
成績評価基準	シラバスで明示した到達目標を達成しているかを、年間の定期試験を総合的に評価する。
成績評価方法	成績評価の算定方法(評価割合: %) 定期(到達目標達成確認)試験: 100%
履修の条件 留意点	定期(到達目標達成確認)試験の評価を合計して60%以上で履修とする。この科目は専門分野・臨床はり学、臨床きゆう学・はき理論Ⅱの単位として認定されます。
担当教員	★授業時間外に必要な学習内容(担当者からのメッセージ) HRでの講義形式にて、機能・用語の理解に重点を置き、解説を行います。成績不良者もしくは希望者については適宜補習を行う予定です。授業中の私語、携帯電話などの不必要な使用に関しては対処します。
オフィスアワー	授業開講日の17:45~18:00 3F教員室



【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SBOs)	講義形態
1 期	1	鍼灸療法の一般治効理論① 1) 自律神経に及ぼす鍼灸刺激の影響	自律神経の概要について説明できる。 自律神経の化学的伝達と受容体について説明できる。 血管の自律神経性調節機構について説明できる。	講義
	2	鍼灸療法の一般治効理論② 2) 鍼灸の血流に及ぼす影響 3) 鍼灸刺激とポリモーダル受容器	鍼灸の血流に及ぼす影響について説明できる。 鍼灸刺激とポリモーダル受容器について説明できる。	講義
	3	鍼灸療法の一般治効理論③ 4) 生体防御機構に及ぼす鍼灸刺激の影響①	灸療法と炎症について、関連と違いを説明できる。 炎症反応と各種メディエーターについて、反応を理解し、産生物等を説明できる。	講義
	4	鍼灸療法の一般治効理論④ 4) 生体防御機構に及ぼす鍼灸刺激の影響②	各灸術による生体防御機構に及ぼす影響について説明できる。 鍼灸刺激による免疫系への影響について説明できる。	講義
	5	鍼灸療法の一般治効理論⑤ 5) 鍼灸刺激と神経系・内分泌系・免疫系の相互作用	鍼灸刺激と神経系・内分泌系・免疫系の相互作用について説明できる。	講義
	6	関連学説① 1) サイバネティックス 2) ホメオスタシス	サイバネティックスについて説明できる。 ホメオスタシスについて説明できる。 緊急反応について説明できる。	講義
	7	関連学説② 3) ストレス学説 4) ホメオスタシス	ストレス学説(汎適応症候群)について説明できる。 レイリー現象(過剰刺激症候群)について説明できる。	講義
	8	関連学説③ 5) 圧発汗反射	圧発汗反射(交叉性交感神経反射)の学説について説明できる。	講義
	9	まとめ		講義
	10	まとめ		講義
	11	期末(到達目標達成確認)試験		試験
	12	期末試験の解説・解答 まとめ		講義

【科目】 はき臨床診察学Ⅳ【はき診察学Ⅱ（臨床医学各論Ⅱ）】

【基本情報】

配当年次	3 学年	担当教員	島村 聡	
単位数	1 単位		(しまむら さとし)	
開講学期	1 学期	授業形態・回数	講義	12 回

【授業情報】

授業概要	はき臨床でも遭遇する疾患のはき治療の適応と不適応の鑑別ができる能力を取得するために、各疾患の概念、原因、主症状、検査所見、予後について学習していく。 また、臨床に必要な診察および治療に関する医学知識ならびに技能の概要を理解する。
授業の一般目標 (G I O)	はき臨床において遭遇する不適応を判定できる能力を習得するために、不適応疾患の特徴や病歴聴取のポイントを理解する。 また、診察学の概要を理解し、診察の方法と応用を概説できる。

【担当教員から】

教科書	1. 「臨床医学各論」東洋療法学校協会編 医歯薬出版(株)
参考書	1. 「臨床医学総論」東洋療法学校協会編 医歯薬出版(株)
成績評価基準	シラバスで明示した到達目標を達成しているかを、定期試験により評価する。
成績評価方法	成績評価の算定方法(評価割合: %) 定期(到達目標達成確認)試験: 100%
履修の条件 留意点	定期(到達目標達成確認)試験の評価を合計して60%以上で履修とする。この科目は専門分野・臨床はり学臨床きゅう学・はき臨床診察学Ⅳの単位として認定されます。
担当教員	★授業時間外に必要な学習内容(担当者からのメッセージ) 授業内容は実技科目と臨床実習が関連するため、積極的な学習姿勢が望まれます。
オフィスアワー	授業開講日の9:15~9:30 3F教員室



【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SBOs)	講義形態
1 期	1	神経疾患①	主な神経疾患（脳血管疾患、感染性疾患、脳・脊髄腫瘍、変性疾患、認知症性疾患、筋疾患、運動ニューロン疾患、末梢神経性疾患、神経痛、機能的疾患）について説明できる。	講義
	2	神経疾患②	神経系の診察（各種検査法）について概説できる。	講義
	3	神経疾患③	運動機能検査について概説できる。	講義
	4	神経疾患④		講義
	5	リウマチ性疾患・膠原病①	主なリウマチ性疾患について説明できる。	講義
	6	膠原病②	リウマチ性疾患に関する上肢の診察について説明できる。 免疫血清学的検査について説明できる。	講義
	7	膠原病③		講義
	8	一般外科（損傷概論・ショック）、 麻酔科（全身麻酔・局所麻酔・ペ インクリニック）	損傷概論について説明できる。 ショックについて説明できる。 救急処置・救急蘇生法について説明できる。 全身麻酔について説明できる。 局所麻酔について説明できる。 ペインクリニックについて説明できる。 バイタルサインについて概説できる。	講義
	9	婦人科疾患（子宮筋腫・子宮癌・ 乳癌・更年期障害） 皮膚科（接触性皮膚炎・じんま疹・ アトピー性皮膚炎） 眼科（目の診察・結膜炎・角膜炎・ 麦粒腫（ものもらい）・白内障・緑 内障） 耳鼻科（メニエール病・中耳炎・ 突発性難聴・アレルギー性鼻炎・ 副鼻腔炎）	子宮筋腫、子宮癌、乳癌、更年期障害についてそれぞれ説明できる。 接触性皮膚炎、じんま疹、アトピー性皮膚炎についてそれぞれ説明できる。 目の診察、結膜炎、角膜炎、麦粒腫（ものもらい）、白内障、緑内障についてそれぞれ説明できる。 メニエール病、中耳炎、突発性難聴、アレルギー性鼻炎、副鼻腔炎についてそれぞれ説明できる。	講義
	10	小児科 精神科（神経症・統合失調症・躁 鬱病（気分障害）） 心療内科（心身症・神経性食思不 振症・神経性過食症）	主な小児科疾患について説明できる。 神経症について説明できる。 統合失調症について説明できる。 躁鬱病（気分障害）について説明できる。 心身症、神経性食思不振症、神経性過食症についてそれぞれ説明できる。	講義
	11	期末(到達目標達成確認)試験		試験
	12	期末試験の解説・解答 まとめ		講義

【科目】 社会はき学 I 【社会はき学】

【基本情報】

配当年次	3 学年	担当教員	足立 昌彦 (あだち まさひこ)	
単位数	1 単位			
開講学期	1 期	授業形態・回数	講義	12 回

【授業情報】

授業概要	現代社会において、特に高齢者、子ども、女性、スポーツ傷害に対するはり師、きゆう師の業務、役割、特有な疾患の治療について概説します。
授業の一般目標 (GIO)	現代社会において鍼灸の需要が増えている高齢者、子ども、女性、スポーツ傷害の治療に対応するために、その世代や状況にみられる身体の特徴や特有な疾患について学び、安全かつ有効に治療するための知識を習得する。

【担当教員から】

教科書	1. 社会あはき学：東洋療法学校協会 編 2. 東洋医学臨床論〈はりきゆう編〉：東洋療法学校協会 編
参考書	1. 『コメディカルのための専門基礎分野テキスト』老年医学：中外医学社
成績評価基準	シラバスで明示した到達目標を達成しているかを、定期試験を総合的に評価する。
成績評価方法	成績評価の算定方法（評価割合：％） 定期（到達目標達成確認）試験：100％
履修の条件 留意点	定期（到達目標達成確認）試験の評価を合計して60％以上で履修とする。この科目は専門分野・社会はき学 I の単位として認定されます。
担当教員	★授業時間外に必要な学習内容（担当者からのメッセージ） 1. 授業の予習・復習をして授業に臨むなど、積極的な学習姿勢が望まれます。 2. 授業では、ノートをとるだけでなく、話をよく聞くこと。 3. 東洋医学・現代医学の両側面から授業を行うことがあるので、混同しないように注意して下さい。 4. 体調管理をしっかりと行い、授業の出席には十分留意して下さい。
オフィスアワー	授業開講日の 12：45～13：00 3F 教員室



【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標（SBOs）	講義形態
1期	1	高齢社会におけるはき師の役割①	高齢者特有の疾患の特徴、症状、治療を列挙できる。	講義
	2	高齢社会におけるはき師の役割②		講義
	3	高齢社会におけるはき師の役割③		講義
	4	スポーツ傷害に対するはき師の役割①	身体各部のスポーツ傷害の特徴、症状、治療を列挙できる。	講義
	5	スポーツ傷害に対するはき師の役割②		講義
	6	スポーツ傷害に対するはき師の役割③		講義
	7	小児の健康管理	小児特有の疾患の特徴、症状、治療を列挙できる。	講義
	8	女性の健康管理①	女性特有の疾患の特徴、症状、治療を列挙できる。	講義
	9	女性の健康管理②		講義
	10	女性の健康管理③		講義
	11	期末(到達目標達成確認)試験		試験
	12	期末試験の解説・解答 まとめ		講義

【科目】社会はき学Ⅱ【関係法規】

【基本情報】

配当年次	3 学年	担当教員	大三川 万起子 (おおみかわ まきこ)	
単位数	1 単位			
開講学期	1 期	授業形態・回数	講義	12 回

【授業情報】

授業概要	はり師、きゆう師という医療従事者としてわが国で活動していく上で必要な法律「あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律（以下、あはき法）」上の規定を学んでいく。例えば、免許を申請するにはどのような書類が必要か、臨床の場である施術所に必要とされる基準は何か、広告の違反などに対する罰則を取り上げる。また医療の一翼を担う者として、医療法・医薬品医療機器等・医師法など私達を取り巻く医療関係の法規を学ぶ。
授業の一般目標 (GIO)	免許を与えられて施術を行う責任感を持てるように、あはき法や他の医療関係者の法規、医療関係の法規について理解する。

【担当教員から】

教科書	1. 「関係法規」第7版 東洋療法学校協会編 医歯薬出版(株)
参考書	
成績評価基準	シラバスで明示した到達目標を達成しているかを、期末試験で評価する。
成績評価方法	成績評価の算定方法（評価割合：％） 定期(到達目標達成確認)試験：100%
履修の条件 留意点	定期(到達目標達成確認)試験評価で60%以上で履修とする。 この科目は専門分野・社会はり学、社会きゆう学・社会はき学Ⅱの単位として認定されます。
担当教員	★授業時間外に必要な学習内容（担当者からのメッセージ） 授業では、ノートをとるだけでなく、話をよく聞くことに努めてください。
オフィスアワー	授業開講日の12：45～13：00 3F教員室



【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標（SBOs）	講義形態
1期	1	わが国の法の体系	わが国の法規を優先順位の高いものから並べ、概説できる。	講義
	2	あはき法①	あはき法による免許について概説できる。	講義
	3	あはき法②	あはき師として行える業務と行えない業務を説明できる。	講義
	4	あはき法③	あはきの施術所の構造設備・届出・行政指導について説明できる。	講義
	5	あはき法④	出張專業や滞在業務の届出について概説できる。	講義
	6	あはき法⑤	あはき法による広告の制限について説明できる。	講義
	7	あはき法⑥	あはき師に関わる罰金について説明できる。	講義
	8	医師法・その他の医療関係者の身分法	医師法について説明できる。 その他の医療関係者の身分法を挙げ、概説できる。	講義
	9	医療法	医療法により規定されている医療施設を挙げ、概説できる。	講義
	10	医薬品医療機器等	医薬品医療機器等が規定しているものを挙げ、概説できる。 医薬品を分類できる。	講義
	11	期末（到達目標達成確認）試験		試験
	12	期末試験の解説・解答まとめ		講義

【科目】 はき適応疾患実習Ⅱ 【はき適応疾患実習】

【基本情報】

配当年次	3 学年	担当教員	堀部 豪 (実務経験あり)	
単位数	2 単位		(ほりべ ごう)	
開講学期	前期・後期	授業形態・回数	講義・実習	36 回

【授業情報】

授業概要	最終学年での応用実技授業として、臨床に出た際に直ぐに使える技術の習得を目指す授業です。2年までの基本的な技術を踏まえて、種々の症候・疾患を想定して具体的な治療を実践するために開業または病院勤務されている教員・講師に教授してもらいます。
授業の一般目標 (GIO)	臨床に出た際に直ぐに使える技術を習得するために、基礎理論をふまえて各疾患に対し、診察・診断・治療ができる。

【担当教員から】

教科書	1. 『東洋医学臨床論 はりきゅう編』；東洋療法学校協会編（医道の日本社）
参考書	1. 『臨床医学各論』；東洋療法学校協会編（医師薬出版株式会社） 2. 『臨床医学総論』；東洋療法学校協会編（医師薬出版株式会社） 他、授業内で適宜提示します。
成績評価基準	シラバスで明示した到達目標を達成しているかを実技試験にて判断する。
成績評価方法	成績評価の算定方法（評価割合：％） 実技(到達目標達成確認)試験：100%
履修の条件 留意点	実技(到達目標達成確認)試験の評価を合計して60%以上で履修とする。【実技認定試験対象科目】この科目は専門分野・鍼灸実習・はき適応疾患実習Ⅱの単位として認定されます。
担当教員	★授業時間外に必要な学習内容（担当者からのメッセージ） 授業は各疾患に対し、現代医学と東洋医学両方の内容から行います。 『臨床医学各論』、『臨床医学総論』『東洋医学臨床論』などを参考に行います。 授業の予習・復習をして授業に臨むなど、積極的な学習姿勢が望まれます。授業では、ノートをとるだけでなく、話をよく聞くこと。 また、東洋医学的考察と現代医学的考察の両方を用います、混同しないようにしてください。
オフィスアワー	授業開講日の 12：45～13：00 3F 教員室



【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SBOs)	講義形態
前期 後期	1	頭痛①	頭痛に対する基本的な診察を行うことができる。	講義・実習
	2	頭痛②	頭痛に対する治療を行うことができる。	
	3	耳鳴り・目眩・難聴①	耳鳴り・目眩・難聴に対する基本的な診察を行うことができる。	講義・実習
	4	耳鳴り・目眩・難聴②	耳鳴り・目眩・難聴に対する治療を行うことができる。	
	5	眼精疲労・眼痛	眼精疲労・眼痛に対する基本的な診察を行うことができる。 眼精疲労・眼痛に対する治療を行うことができる。	講義・実習
	6	高血圧・低血圧	高血圧・低血圧に対する基本的な診察を行うことができる。 高血圧・低血圧に対する治療を行うことができる。	講義・実習
	7	顔面神経麻痺①	顔面神経麻痺に対する基本的な診察を行うことができる。	講義・実習
	8	顔面神経麻痺②	顔面神経麻痺に対する治療を行うことができる。	
	9	鼻閉・鼻汁 (花粉症など)	鼻閉・鼻汁に対する基本的な診察を行うことができる。 鼻閉・鼻汁に対する治療を行うことができる。	講義・実習
	10	咳嗽・喉の痛み	咳嗽・喉の痛みに対する基本的な診察を行うことができる。 咳嗽・喉の痛みに対する治療を行うことができる。	講義・実習
	11	腹痛・悪心嘔吐①	腹痛・悪心嘔吐に対する基本的な診察を行うことができる。	講義・実習
	12	腹痛・悪心嘔吐②	腹痛・悪心嘔吐に対する治療を行うことができる。	
	13	食欲不振	食欲不振に対する基本的な診察を行うことができる。 食欲不振に対する治療を行うことができる。	講義・実習
	14	下痢・便秘①	下痢・便秘に対する基本的な診察を行うことができる。	講義・実習
	15	下痢・便秘②	下痢・便秘に対する治療を行うことができる。	
	16	まとめ		講義・実習
	17	期末(到達目標達成確認)試験		試験
	18	期末試験の講評 まとめ		講義・実習
	19	歯痛	歯痛に対する基本的な診察を行うことができる。 歯痛に対する治療を行うことができる。	講義・実習
	20	婦人科疾患①	婦人科疾患に対する基本的な診察を行うことができる。 婦人科疾患に対する治療を行うことができる。	講義・実習
	21	婦人科疾患②		
	22	婦人科疾患③		
	23	婦人科疾患④		
	24	婦人科疾患⑤		
	25	泌尿器疾患 (排尿困難・頻尿など) ①	泌尿器症状に対する基本的な診察を行うことができる。	講義・実習
	26	泌尿器疾患 (排尿困難・頻尿など) ②	泌尿器症状に対する治療を行うことができる。	
	27	皮膚疾患①	皮膚疾患に対する基本的な診察を行うことができる。	講義・実習
	28	皮膚疾患②	皮膚疾患に対する治療を行うことができる。	
	29	不眠症①	不眠症に対する基本的な診察を行うことができる。	講義・実習
	30	不眠症②	不眠症に対する治療を行うことができる。	
	31	倦怠感・疲労	倦怠感・疲労に対する基本的な診察を行うことができる。 倦怠感・疲労に対する治療を行うことができる。	講義・実習
	32	高齢者疾患	高齢者疾患に対する基本的な診察を行うことができる。 高齢者疾患に対する治療を行うことができる。	講義・実習
	33	小児疾患	小児疾患に対する基本的な診察を行うことができる。 小児疾患に対する治療を行うことができる。	講義・実習
	34	まとめ		講義・実習
	35	期末(到達目標達成確認)試験		試験
	36	期末試験の講評 まとめ		講義・実習

【科目】 臨床実習Ⅳ【はき臨床実習】

【基本情報】

配当年次	3 学年	担当教員	三浦 洋 (実務経験あり)	
単位数	1 単位		(みうら ひろし)	
開講学期	前・後期	授業形態・回数	臨床実習	45 時間

【授業情報】

授業概要	<p>外部治療院や学校付属施術所での臨床経験を活かして、はりきゅう施術における基本的臨床能力を想起させるために付属施術所内にて臨床実習を行う。</p> <p>2年次までに学んだ知識や技能を、附属はり・きゅう施術所に通われている一般患者に対して、学生が診療チームの一員として参加し、教員・臨床実習指導者の指導のもとに許容される一定範囲のはり・きゅう施術を行い、将来はり師・きゅう師となるために必要な知識、技能、態度を修得することを目指すものである。</p>
授業の一般目標 (GIO)	<p>はり師、きゅう師としての自立に向け、施術チームの一員として指導教員の指導・監督の下、外来患者の診察、はき治療の適不適の鑑別、治療計画、基本的治療技能、診療録への記録を含む患者マネジメントを実践し、臨床に携わる者としての態度、ならびに臨床能力の基礎を理解する。</p>

【担当教員から】

教科書	—
参考書	—
成績評価基準	シラバスで明示した到達目標を達成しているかを総合的に評価する。
成績評価方法	成績評価の算定方法（評価割合：％） ベッドサイド実習：100％
履修の条件 留意点	本科目の単位取得のためには、全出席が必要です。欠席、遅刻や早退などは認められないので、体調管理をしっかりと行い、授業の出欠には十分留意すること。この科目は専門分野・臨床実習・臨床実習Ⅳの単位として認定されます。
担当教員	★授業時間外に必要な学習内容（担当者からのメッセージ） 1. 附属施術所での行動内容の確認や身だしなみのチェックをグループ内で行うこと。 2. 実習終了後は、症例報告書の作成を行い、後日指示に従って提出をすること。 3. 施術所で行う臨床実習での遅刻は欠席扱いとします。また、この科目は出席を重視しますので、1回の欠席は通常の2～3倍の総合評価の減点につながりますので、十分に自身の健康管理に留意すること。 4. 全ての臨床実習の出席前に <u>欠席・遅刻となる事象が発生した場合は</u> 、事象が判明した時点で直ちに担任・副担任・担当教員へ連絡すること。 5. 重要掲示板または教室に掲示する「臨床実習日一覧表」を確認して、指定された実習日・集合時間に出席すること。
オフィスアワー	適宜3F 教員室を訪ねること。



【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標（SBOs）	講義形態
通期		<p>1. 施術所における臨床実習</p> <p>1) 指導教員の下で、全 5 回のベッドサイド実習を行う。小グループによるローテーションとする。（見学 1 回・学生施術 4 回）</p> <p>①医療面接 ②徒手検査 ③施術 * ①～③を小グループ内にて役割分担</p> <p>2) 指導教員の下で、施術所一般患者の施術、施術前後の付帯業務を行う。また、状況によっては施術補助を行う。</p> <p>3) 毎回カルテの下書きを作成し、不明な点を調べて加筆した後、施術所カルテへ記録する。カルテの書き方は SOAP 方式に沿って記載する。</p> <p>4) カルテは翌週施術日前日までに清書する。</p> <p>2. 症例報告作成・症例検討会実施</p> <p>1) カルテ記載内容を元に、症例報告作成の手引きに基づき小グループで症例報告を作成する。</p> <p>2) 症例発表し、クラス内にて質疑応答を実施する。</p>	<p>1) 診療を通して患者と良好な人間関係を確立することができる。</p> <p>2) 患者の抱える問題点に共感することができる。</p> <p>3) 面接所見をもとに、患者の抱える問題点に対する身体診察を実施できる。</p> <p>4) 受け持ち患者の抱える問題点に対する治療の適否判断し、施術計画の立案、治療穴の選定ができる。</p> <p>5) 患者に対し、インフォームド・コンセントが行える。</p> <p>6) 患者に不快な思いを与えずに、安全に配慮し、あまし施術、刺鍼・施灸することができる。</p> <p>7) 各症例に基づいて問題解決を行うことができる。</p> <p>8) 治療効果を判定することができる。</p> <p>9) 治療中のアクシデントに適切に対応することができる。</p> <p>10) 一般患者臨床の診療録を POMR と SOAP で作成できる。</p> <p>11) 受け持ち患者の情報を要約して、簡潔に提示できる。</p> <p>12) 症例報告を作成し検討・考察することができる。</p> <p>13) 自己の臨床能力を評価できる。</p> <p>14) 他からの臨床能力評価を受け入れる。</p> <p>15) 他の症例検討を通じた気づきを得る。</p>	臨床実習 又は 演習・グループワーク

【科目】 臨床総合講座Ⅲ 【病理学演習】

【基本情報】

配当年次	3 学年	担当教員	李 英俊	
単位数	1 単位		(い よんじゅん)	
開講学期	3 期	授業形態・回数	講義	12 回

【授業情報】

授業概要	今までに学んだ「病理学」をもとに、国家試験に出題される範囲を中心に、講義と問題演習を行い、合格する為の力を身につける。
授業の一般目標 (GIO)	国家試験に合格するために、病理学について総括し、理解を深め、国家試験レベルの問題に正しく解答できる力を身につける。

【担当教員から】

教科書	「病理学概論」東洋療法学校協会編 医歯薬出版（株）
参考書	
成績評価基準	シラバスで明示した到達目標を達成しているかを、期末試験に代わって実施される二次卒業試験の「病理学」の範囲の結果で評価する。
成績評価方法	成績評価の算定方法（評価割合：％） 1. 期末(到達目標達成確認)試験：100%
履修の条件 留意点	期末(到達目標達成確認)試験に代わって実施される二次卒業試験の「病理学」の範囲の評価60%以上により履修とする。【年度末試験対象科目】この科目は専門分野・総合領域・臨床総合講座Ⅲの単位として認定されます。
担当教員	★授業時間外に必要な学習内容（担当者からのメッセージ） 1. 今までに学んだ「病理学」の内容を理解している前提で授業を行うので、授業の前までに復習しておくこと。 2. 授業前に各単元の問題を配付し、各自事前に問いてきたものを基に、総復習をして行きます。
オフィスアワー	授業開講日の 12：45～13：00 3F 教員室



【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SBOs)	講義形態
3 期	1	病因	病因について概説できる。	講義・演習
	2	循環障害	循環障害について概説できる。	講義・演習
	3	退行性病変	退行性病変について概説できる。	講義・演習
	4	進行性病変	進行性病変について概説できる。	講義・演習
	5	炎症	炎症について概説できる。	講義・演習
	6	腫瘍	腫瘍について概説できる。	講義・演習
	7	免疫異常・アレルギー	免疫異常について概説できる。 アレルギーについて概説できる。	講義・演習
	8	先天性異常	先天性異常について概説できる。	講義・演習
	9	問題演習①	四者択一問題の解答を導き出すことができる。 誤解答の場合、その理由を理解することができる。	講義・演習
	10	問題演習②		講義・演習
	11	問題演習③		講義・演習
			到達目標達成確認試験 (二次卒業試験)	
12	まとめ			講義・演習

【科目】 臨床総合講座Ⅳ 【臨床総合演習】

【基本情報】

配当年次	3 学年	担当教員	坂本 収司	
単位数	1 単位		(さかもと しゅうじ)	
開講学期	1 学期	授業形態・回数	講義	12 回

【授業情報】

授業概要	今までに学んだ専門基礎分野・専門分野の科目（解剖学・生理学・臨床医学総論・臨床医学各論・病理学・リハビリテーション医学・公衆衛生学・東洋医学概論・経絡経穴概論・東洋医学臨床論・はりきゅう理論など）をもとに、国家試験に出題される範囲を中心に、講義と問題演習を行い、合格する為の力を身につけてもらいます。
授業の一般目標 (GIO)	国家試験に合格するために、専門基礎分野・専門分野について総括し、理解を深め、国家試験レベルの問題に正しく解答できる力を身につける。

【担当教員から】

教科書	
参考書	1. 解剖学 第2版 医歯薬出版 2. 生理学 第3版 医歯薬出版 3. 臨床医学総論 第2版 医歯薬出版 4. 臨床医学各論 第2版 医歯薬出版 5. 病理学概論 第2版 医歯薬出版 6. リハビリテーション医学第4版 医歯薬出版 7. 衛生学・公衆衛生学第2版 医歯薬出版 8. 新版 東洋医学概論；東洋療法学校協会編 医道の日本社 9. 新版 経絡経穴概論；東洋療法学校協会編 医道の日本社 10. 東洋医学臨床論〈はりきゅう編〉；東洋療法学校協会編 医道の日本社 11. 東洋医学臨床論〈あん摩マッサージ指圧編〉；東洋療法学校協会編 医道の日本社 12. はりきゅう理論 医道の日本社
成績評価基準	シラバスで明示した到達目標を達成しているかを、期末試験の結果で評価する。
成績評価方法	成績評価の算定基準（評価割合：％） 1. 期末（到達目標達成確認）試験：100％
履修の条件 留意点	期末（到達目標達成確認）試験の評価60％以上により履修とする。【卒業試験対象科目】 この科目は専門分野・総合領域・臨床総合講座Ⅳの単位として認定されます。
担当教員	★授業時間外に必要な学習内容（担当者からのメッセージ） 1. 今までに学んだ専門基礎分野・専門分野の内容を理解している前提で授業を行うので、授業の前までに復習しておくこと。 2. 授業前に各単元の問題を配付し、各自事前に問いてきたものを基に、総復習をして行きます。
オフィスアワー	授業開講日の12：45～13：00 3F教員室



【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SBOs)	講義形態
1期	1	解剖学 問題演習	四者択一問題の解答を導き出すことができる。 誤解答の場合、その理由を理解することができる。	講義・演習 試験
	2	生理学 問題演習		
	3	医療概論・衛生学 問題演習		
	4	臨床医学各論 問題演習		
	5	臨床医学総論・リハビリテーション医学 問題演習		
	6	東洋医学概論 問題演習		
	7	経絡経穴概論 問題演習		
	8	東洋医学臨床論 問題演習①		
	9	東洋医学臨床論 問題演習②		
	10	関係法規・病理学 問題演習		
	11	1学期期末試験		
	12	フィードバック		

【科目】 臨床総合講座Ⅴ 【公衆衛生学・法規・医療概論演習】

【基本情報】

配当年次	3学年	担当教員	大三川 万起子 (おおみかわ まきこ)	
単位数	2単位			
開講学期	2・3期	授業形態・回数	講義	24回

【授業情報】

授業概要	「国民衛生の動向」のデータを参考にしながら、様々な統計を確認し、重要なデータを理解してもらいます。また、今までに学んだ「保健と医療Ⅰ・Ⅱ、社会はき学Ⅱ」をもとに、「公衆衛生学・医療概論・関係法規」として国家試験に出題される範囲を中心に、講義と問題演習を行い、合格する為の力を身につけてもらいます。
授業の一般目標 (GIO)	国家試験に合格するために、衛生学について総括し、理解を深め、国家試験レベルの問題に正しく解答できる力を身につける。

【担当教員から】

教科書	1. 「衛生学・公衆衛生学」第2版 東洋療法学校協会編 医歯薬出版(株)
参考書	1. 「国民衛生の動向」 厚生統計協会
成績評価基準	シラバスで明示した到達目標を達成しているかを、期末試験に代わって実施される卒業試験の「衛生学・公衆衛生学」の範囲の結果で評価する。
成績評価方法	成績評価の算定方法(評価割合: %) 1. 卒業末(到達目標達成確認)試験: 100%
履修の条件 留意点	期末(到達目標達成確認)試験に代わって実施される卒業試験の「公衆衛生学」の範囲の評価60%以上により履修とする。【卒業試験対象科目】この科目は専門分野・総合領域・臨床総合講座Ⅴの単位として認定されます。
担当教員	★授業時間外に必要な学習内容(担当者からのメッセージ)
	1. 今までに学んだ「公衆衛生学」の内容を理解している前提で授業を行うので、授業の前までに復習しておくこと。 2. 授業前に各単元の問題を配付し、各自事前に問いてきたものを基に、総復習をして行きます。
オフィスアワー	授業開講日の12:45~13:00 3F教員室

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標（SBOs）	講義形態	
2・3 期	1	衛生学的統計①	わが国の様々な衛生学的統計を理解できる。	講義・演習	
	2	健康・ライフスタイル	健康の定義について概説できる。 健康の増進について概説できる。 疾病予防について概説できる。 健康日本21について概説できる。 健康と食生活について概説できる。	講義・演習	
	3	環境と健康	日常生活環境について概説できる。 各種環境要因について概説できる。 公害について概説できる。 環境問題について概説できる。	講義・演習	
	4	産業保健、精神保健	産業保健について概説できる。 精神保健について概説できる。	講義・演習	
	5	母子保健、成人・高齢者保健	母子保健について概説できる。 成人・高齢者保健について概説できる。	講義・演習	
	6	感染症、消毒法	感染症について概説できる。 消毒法について概説できる。	講義・演習	
	7	疫学	疫学について概説できる。	講義・演習	
	8	医師法	医師法について説明できる。	講義・演習	
	9	その他の医療関係者の法規	薬剤師ほか、医療従事者の法規を挙げ、説明できる。	講義・演習	
	10	医療法	医療法により規定されている医療施設を挙げ、説明できる。	講義・演習	
	11	医薬品医療機器等法	医薬品医療機器等法が規定しているものを挙げ、説明できる。 医薬品の分類が説明できる。 医療保険の種類を挙げ、概説できる。 公費医療・医療扶助について概説できる。 国民医療費について概説できる。 わが国の介護保険制度について概説できる。	講義・演習	
	12	医療制度・医療保障	医療倫理と医療安全について概説できる。	講義・演習	
	13	医療倫理と医療安全	医療法により規定されている医療施設を挙げ、説明できる。	講義・演習	
	14	医療・福祉の法規	医薬品医療機器等法が規定しているものを挙げ、説明できる。 医薬品の分類が説明できる。	講義・演習	
			到達目標達成確認試験 （一次卒業試験）		試験
	15	問題演習①	四者択一問題の解答を導き出すことができる。 誤解答の場合、その理由を理解することができる。		演習
	16	問題演習②			演習
	17	問題演習③			演習
	18	問題演習④			演習
	19	問題演習⑤			演習
	20	問題演習⑥			演習
	21	問題演習⑦			演習
	22	問題演習⑧			演習
	23	問題演習⑨			演習
		到達目標達成確認試験 （二次卒業試験）			試験
24	まとめ			講義	

【科目】 臨床総合講座VI 【東洋医学概論演習】

【基本情報】

配当年次	3学年	担当教員	坂本 辰徳	
単位数	2単位		(さかもと たつり)	
開講学期	2・3期	授業形態・回数	講義	24回

【授業情報】

授業概要	今までに学んだ「東洋医学概論Ⅰ・Ⅱ」をもとに、国家試験に出題される範囲を中心に、講義と問題演習を行い、合格する為の力を身につけてもらいます。
授業の一般目標 (GIO)	国家試験に合格するために、東洋医学概論について総括し、理解を深め、国家試験レベルの問題に正しく解答できる力を身につける。

【担当教員から】

教科書	新版 東洋医学概論；東洋療法学校協会編 医道の日本社
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新版 経絡経穴概論；東洋療法学校協会編 医道の日本社 2. 「東洋医学臨床論」〈はりきゅう偏〉；東洋療法学校協会編 医道の日本社 3. 「東洋医学臨床論」〈あん摩マッサージ指圧偏〉；東洋療法学校協会編 医道の日本社
成績評価基準	シラバスで明示した到達目標を達成しているかを、期末試験に代わって実施される卒業試験の「東洋医学概論」の範囲の結果で評価する。
成績評価方法	成績評価の算定基準（評価割合：％） <ol style="list-style-type: none"> 1. 期末(到達目標達成確認)試験：100％
履修の条件 留意点	期末(到達目標達成確認)試験に代わって実施される卒業試験の「東洋医学概論」の範囲の評価60%以上により履修とする。【卒業試験対象科目】この科目は専門分野・総合領域・臨床総合講座VIの単位として認定されます。
担当教員	★授業時間外に必要な学習内容（担当者からのメッセージ）
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 今までに学んだ「東洋医学概論」の内容を理解している前提で授業を行うので、授業の前までに復習しておくこと。 2. 授業前に各単元の問題を配付し、各自事前に問いてきたものを基に、総復習をしていきます。
オフィスアワー	授業開講日の12：45～13：00 3F教員室

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標（SBOs）	講義形態
2・3 期	1	基礎理論・陰陽論	基礎理論・陰陽論について概説できる。	講義・演習
	2	五行説・五行色体表	五行説・五行色体表について概説できる。	講義・演習
	3	気血津液の生理	気血津液の生理について概説できる。	講義・演習
	4	気血津液の病理・病証	気血津液の病理・病証について概説できる。	講義・演習
	5	六臓六腑の生理	六臓六腑の生理について概説できる。	講義・演習
	6	六臓の病理・病証	六臓の病理・病証について概説できる。	講義・演習
	7	六腑の病理・病証	六腑の病理・病証について概説できる。	講義・演習
	8	八綱病証・病因論	八綱病証・病因論について概説できる。	講義・演習
	9	臓腑経絡論・経脈病証	臓腑経絡論・経脈病証（十二経絡病証・六経病証・奇経八脈病証）について概説できる。	講義・演習
	10	東洋医学的診察法と証の立て方①	東洋医学的診察法と証の立て方について概説できる。	講義・演習
	11	東洋医学的診察法と証の立て方②		
	12	東洋医学的診察法と証の立て方③		
	13	治療原則①	治療原則・刺法について概説できる。	講義・演習
	14	治療原則②・刺法		
			到達目標達成確認試験 （一次卒業試験）	試験
	15	問題演習①	四者択一問題の解答を導き出すことができる。 誤解答の場合、その理由を理解することができる。	演習
	16	問題演習②		演習
	17	問題演習③		演習
	18	問題演習④		演習
	19	問題演習⑤		演習
	20	問題演習⑥		演習
	21	問題演習⑦		演習
	22	問題演習⑧		演習
	23	問題演習⑨		演習
		到達目標達成確認試験 （二次卒業試験）	試験	
24	まとめ		講義	

【科目】 臨床総合講座Ⅶ【経絡経穴概論演習】

【基本情報】

配当年次	3学年	担当教員	坂本 辰徳	
単位数	2単位		(さかもと たつり)	
開講学期	2・3期	授業形態・回数	講義	24回

【授業情報】

授業概要	今までに学んだ「経絡経穴概論Ⅰ・Ⅱ」をもとに、国家試験に出題される範囲を中心に、講義と問題演習を行い、合格する為の力を身につけてもらいます。
授業の一般目標 (GIO)	国家試験に合格するために、経絡経穴概論について総括し、理解を深め、国家試験レベルの問題に正しく解答できる力を身につける。

【担当教員から】

教科書	経絡経穴概論：東洋療法学校協会編 医道の日本社
参考書	WHO 経穴部位日本語公式版
成績評価基準	シラバスで明示した到達目標を達成しているかを、期末試験に代わって実施される卒業試験の「経絡経穴概論」の範囲の結果で評価する。
成績評価方法	成績評価の算定基準（評価割合：％） 1. 期末(到達目標達成確認)試験：100％
履修の条件 留意点	期末(到達目標達成確認)試験に代わって実施される三次卒業試験の「経絡経穴概論」の範囲の評価60%以上により履修とする。【卒業試験対象科目】この科目は専門分野・総合領域・臨床総合講座Ⅶの単位として認定されます。本科目の単位取得のためには、
担当教員	★授業時間外に必要な学習内容（担当者からのメッセージ）
	1. 今までに学んだ「経絡経穴概論」の内容を理解している前提で授業を行うので、授業の前までに復習しておくこと。 2. 授業前に各単元の問題を配付し、各自事前に問いてきたものを基に、総復習をしていきます。
オフィスアワー	授業開講日の12：45～13：00 3F教員室

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SBOs)	講義形態	
2・3 期	1	経絡の概要・骨度法	経絡の概要・骨度法について概説できる。	講義・演習	
	2	経穴の概要①	経穴（五俞穴・五要穴）について概説できる。	講義・演習	
	3	経穴の概要②・奇経八脈	経穴（その他の要穴）・奇経八脈について概説できる。	講義・演習	
	4	現代医学	現代医学について概説できる。	講義・演習	
	5	上肢の経穴①	上肢の経穴について概説できる。	講義・演習	
	6	上肢の経穴②	上肢の筋・神経について概説できる。	講義・演習	
	7	下肢の経穴①	下肢の経穴について概説できる。	講義・演習	
	8	下肢の経穴②	下肢の筋・神経について概説できる。	講義・演習	
	9	体幹部の経穴①	体幹部（背側）の経穴について概説できる。	講義・演習	
	10	体幹部の経穴②	体幹部（腹側）の経穴について概説できる。	講義・演習	
	11	体幹部の経穴③	体幹部の筋・神経について概説できる。	講義・演習	
	12	顔面・頸部の経穴	顔面・頸部の経穴について概説できる。	講義・演習	
	13	奇穴	奇穴について概説できる。	講義・演習	
	14	まとめ		講義・演習	
			到達目標達成確認試験 （一次卒業試験）		試験
		15	問題演習①	四者択一問題の解答を導き出すことができる。 誤解答の場合、その理由を理解することができる。	演習
		16	問題演習②		演習
		17	問題演習③		演習
		18	問題演習④		演習
		19	問題演習⑤		演習
		20	問題演習⑥		演習
		21	問題演習⑦		演習
		22	問題演習⑧		演習
		23	問題演習⑨		演習
		到達目標達成確認試験 （二次卒業試験）		試験	
	24	まとめ		講義	

【科目】 臨床総合講座Ⅷ【東洋臨床診察治療学演習】

【基本情報】

配当年次	3 学年	担当教員	小熊 勇人	
単位数	2 単位		(おぐま はやと)	
開講学期	2・3 期	授業形態・回数	講義	24 回

【授業情報】

授業概要	今までに学んだ「東洋臨床診察治療学」をもとに、国家試験に出題される範囲を中心に、講義と問題演習を行い、合格する為の力を身につけてもらいます。
授業の一般目標 (GIO)	国家試験に合格するために、東洋医学臨床論について総括し、理解を深め、国家試験レベルの問題に正しく解答できる力を身につける。

【担当教員から】

教科書	1. 「東洋医学臨床論」〈はりきゅう編〉；東洋療法学校協会編 医道の日本社 2. 「東洋医学臨床論」〈あん摩マッサージ指圧編〉；東洋療法学校協会編 医道の日本社
参考書	1. 新版 東洋医学概論；東洋療法学校協会編 2. 新版 経絡経穴概論；東洋療法学校協会編 3. リハビリテーション医学 第4版；東洋療法学校協会編
成績評価基準	シラバスで明示した到達目標を達成しているかを、期末試験に代わって実施される卒業試験の「東洋医学臨床論」の範囲の結果で評価する。
成績評価方法	成績評価の算定基準（評価割合：％） 1. 期末（到達目標達成確認）試験：100％
履修の条件 留意点	期末（到達目標達成確認）試験に代わって実施される卒業試験の「東洋医学臨床論」の範囲の評価60％以上により履修とする。【卒業試験対象科目】この科目は専門分野・総合領域・臨床総合講座Ⅷの単位として認定されます。
担当教員	★授業時間外に必要な学習内容（担当者からのメッセージ）
	1. 今までに学んだ「東洋医学臨床論」の内容を理解している前提で授業を行うので、授業の前までに復習しておくこと。 2. 授業前に各単元の問題を配付し、各自事前に問いてきたものを基に、総復習をして行きます。
オフィスアワー	授業開講日の12：45～13：00 3F教員室

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SBOs)	講義形態	
2・3 期	1	治療原則	治療原則について概説できる。	講義・演習	
	2	頭痛・顔面痛	頭痛・顔面痛について概説できる。	講義・演習	
	3	顔面麻痺・歯痛・眼精疲労	顔面麻痺について概説できる。 歯痛について概説できる。 眼精疲労について概説できる。	講義・演習	
	4	脱毛症・めまい・鼻閉・鼻汁	脱毛症について概説できる。 めまいについて概説できる。 鼻閉・鼻汁について概説できる。	講義・演習	
	5	耳鳴り・難聴・咳嗽・喘息	耳鳴り・難聴について概説できる。 咳嗽・喘息について概説できる。	講義・演習	
	6	胸痛・腹痛・悪心と嘔吐	胸痛について概説できる。 腹痛について概説できる。 悪心と嘔吐について概説できる。	講義・演習	
	7	便秘と下痢・月経異常・排尿障害・インポテンツ	便秘と下痢について概説できる。 月経異常について概説できる。 排尿障害・インポテンツについて概説できる。	講義・演習	
	8	肩こり・頸肩腕痛	肩こり・頸肩腕痛について概説できる。	講義・演習	
	9	肩関節痛・上肢痛	肩関節痛について概説できる。 上肢痛について概説できる。	講義・演習	
	10	腰下肢痛・膝痛	腰下肢痛について概説できる。 膝痛について概説できる。	講義・演習	
	11	運動麻痺・高血圧・低血圧	運動麻痺について概説できる。 高血圧・低血圧について概説できる。	講義・演習	
	12	食欲不振・肥満・発熱	食欲不振・肥満について概説できる。 発熱について概説できる。	講義・演習	
	13	のぼせと冷え・不眠・疲労と倦怠・発疹	のぼせと冷えについて概説できる。 不眠について概説できる。疲労と倦怠・発疹について概説できる。	講義・演習	
	14	スポーツ傷害、小児の症状・老年医学	スポーツ傷害について概説できる。 小児の症状について概説できる。 老年医学について概説できる。	講義・演習	
			到達目標達成確認試験 (一次卒業試験)		試験
		15	問題演習①	四者択一問題の解答を導き出すことができる。 誤解答の場合、その理由を理解することができる。	演習
		16	問題演習②		演習
		17	問題演習③		演習
		18	問題演習④		演習
		19	問題演習⑤		演習
		20	問題演習⑥		演習
		21	問題演習⑦		演習
		22	問題演習⑧		演習
		23	問題演習⑨		演習
		到達目標達成確認試験 (二次卒業試験)		試験	
	24	まとめ		講義	

【科目】 臨床総合講座Ⅹ【はき理論演習】

【基本情報】

配当年次	3 学年	担当教員	武井 良之	
単位数	2 単位		(たけい よしゆき)	
開講学期	2・3 期	授業形態・回数	講義	24 回

【授業情報】

授業概要	今までに学んだ「はき理論Ⅰ・Ⅱ」をもとに、「はり理論」「きゅう理論」として国家試験に出題される範囲を中心に、講義と問題演習を行い、合格する為の力を身につけてもらいます。また、はり理論、きゅう理論、生理学、その他関連科目とのつながりを確認し、解説をしつつ補充していきます。
授業の一般目標 (GIO)	国家試験に合格するために、はり理論について総括し、理解を深め、国家試験レベルの問題に正しく解答できる力を身につける。

【担当教員から】

教科書	1. はりきゅう理論 東洋療法学校協会編 医道の日本社
参考書	1. 鍼灸医療安全ガイドライン 医歯薬出版(株)
成績評価基準	シラバスで明示した到達目標を達成しているかを、期末試験に代わって実施される卒業試験の「はき理論」の範囲の結果で評価する。
成績評価方法	成績評価の算定基準(評価割合: %) 1. 期末(到達目標達成確認)試験: 100%
履修の条件 留意点	期末(到達目標達成確認)試験に代わって実施される卒業試験の「はり理論」「きゅう理論」の範囲の評価60%以上により履修とする。【卒業試験対象科目】この科目は専門分野・総合領域・臨床総合講座Ⅹの単位として認定されます。
担当教員	★授業時間外に必要な学習内容(担当者からのメッセージ)
	1. 今までに学んだ「はり理論」「きゅう理論」の内容を理解している前提で授業を行うので、授業の前までに復習しておくこと。 2. 授業前に各単元の問題を配付し、各自事前に問いてきたものを基に、総復習をしていきます。
オフィスアワー	授業開講日の 12:45~13:00 3F 教員室

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標（SBOs）	講義形態	
2・3 期	1	鍼の基礎知識	鍼の基礎知識について概説できる。	講義・演習	
	2	刺鍼の方式と術式、特殊鍼法	刺鍼の方式と術式について概説できる 特殊鍼法について概説できる。	講義・演習	
	3	鍼の臨床応用とリスク管理	鍼の臨床応用について概説できる。 鍼のリスク管理について概説できる。	講義・演習	
	4	鍼治効の基礎①	鍼治効の基礎について概説できる。	講義・演習	
	5	鍼療法の一般治効理論①	鍼療法の一般治効理論について概説できる。	講義・演習	
	6	鍼療法の一般治効理論②	奇穴について概説できる。	講義・演習	
	7	灸の基礎知識と灸術の種類	灸の基礎知識について概説できる。 灸術の種類について概説できる。	講義・演習	
	8	灸の臨床応用とリスク管理	灸の臨床応用について概説できる。 灸のリスク管理について概説できる。	講義・演習	
	9	灸治効の基礎①	灸治効の基礎について概説できる。	講義・演習	
	10	鍼・灸の治効の基礎①	感覚の伝導について概説できる。	講義・演習	
	11	鍼・灸の治効の基礎②	痛覚抑制系について概説できる。	講義・演習	
	12	灸療法の一般治効理論①	灸療法の一般治効理論について概説できる。	講義・演習	
	13	関連学説①	鍼灸の関連学説について概説できる。	講義・演習	
	14	関連学説②		講義・演習	
			到達目標達成確認試験 (一次卒業試験)		試験
		15	問題演習①	四者択一問題の解答を導き出すことができる。 誤解答の場合、その理由を理解することができる。	演習
		16	問題演習②		演習
		17	問題演習③		演習
		18	問題演習④		演習
		19	問題演習⑤		演習
		20	問題演習⑥		演習
		21	問題演習⑦		演習
		22	問題演習⑧		演習
		23	問題演習⑨		演習
		到達目標達成確認試験 (二次卒業試験)		試験	
	24	まとめ		講義	

【基本情報】

配当年次	2 学年	担当教員	村瀬 訓生	
単位数	1 単位		(むらせ のりお)	
開講学期	1 学期	授業形態・回数	講義	12 回

【授業情報】

授業概要	はり師・きゅう師（以下、鍼灸師）が医療連携を行っていく上で、病院等の医療関係者が患者にどのような視点で関わっているのかを理解する必要がある。そこで、内科医が普段どのような視点で診察を行っているかを理解し、はき臨床に応用できる診察法を学んでいくために、学園付属の呉竹メディカルクリニックの医師に内科診断のポイントを教授していただく。
授業の一般目標 (GIO)	鍼灸師が医療連携を行っていくために、内科の診察法を理解するとともに、その評価方法についても学習する。

【担当教員から】

教科書	特に指定しない。
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「フィジカルアセスメントがみえる 第1版」；メディックメディア 2. 「ビジュアルノート 第5版」；メディックメディア 3. 「内科診断学第3版」；医学書院 4. 「メルクマニュアル医学百科 家庭版」；URL: http://mmh.banyu.co.jp/index.html
成績評価基準	シラバスで明示した到達目標を達成しているかを、年間の定期試験で評価する。
成績評価方法	成績評価の基準（評価割合：％） 期末(到達目標達成確認)試験：100％
履修の条件 留意点	期末(到達目標達成確認)試験の評価を合計して60%以上により履修とする。この科目は選択科目・内科診断学の単位として認定されます。
担当教員	★授業時間外に必要な学習内容（担当者からのメッセージ）
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 西洋医学と東洋医学、それぞれの特徴（長所と欠点）を理解してほしい。また、西洋医学における診断に至るまでの過程を理解してほしい。 2. 試験問題は講義中に紹介する。また、練習問題からも出題する。 3. 第1回目の授業は4月3日（金）の予定。 4. 講義は8F実技室で行うが、第11回は5F講堂・柔道場で行う。
オフィスアワー	授業開講日の12：45～13：00 3F教員室

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標（SBOs）	講義形態
1期	1	感染予防と標準予防策	感染予防と標準予防策が理解できる。	講義
	2	内科診断の進め方	西洋医学における診察の基礎が理解できる。	講義・実習
	3	現症のとり方 問診・バイタルサイン①	内科的問診のとり方を理解できる。 バイタルサインが説明できる。	講義・実習
	4	現症のとり方 問診・バイタルサイン②	バイタルサインの確認が実践できる。	講義・実習
	5	理学的診断法① 心疾患の病態と診断の基本	主な心疾患の病態が理解できる。 心疾患の診断の基本が理解できる。	講義・実習
	6	理学的診断法② 呼吸器疾患の病態と診断の基本	主な呼吸器疾患の病態が理解できる。 呼吸器疾患の診断の基本が理解できる。	講義・実習
	7	理学的診断法③ 消化器疾患の病態と診断の基本	主な消化器疾患の病態が理解できる。 消化器疾患の診断の基本が理解できる。	講義・実習
	8	理学的診断法④ 神経系疾患の病態と診断の基本	主な神経系疾患の病態が理解できる。 神経系疾患の診断の基本が理解できる。	講義・実習
	9	代謝・内分泌疾患 病態と診断の基本 血液検査の評価	主な代謝・内分泌疾患の病態が理解できる。 代謝・内分泌疾患の診断の基本が理解できる。 代謝・内分泌疾患を評価する血液検査項目が理解できる。	演習
	10	期末(到達目標達成確認)試験		試験
	11	E B M（科学的根拠に基づいた医療）の演習と肥満者生活指導に関する演習	E B Mの意味を説明できる。 E B Mに基づいた診察法を実践できる。 肥満者への生活指導について説明できる。	講義・実習
	12	A E D実習	C P Rの基本について説明できる。 A E Dの基本的な使用方法が説明できる。	講義・実習

【科目】 病態生理Ⅱ 【整形外科学】

【基本情報】

配当年次	2学年	担当教員	有澤 治	
単位数	2単位		(ありさわ おさむ)	
開講学期	2・3学期	授業形態・回数	講義	24回

【授業情報】

授業概要	はり師・きゅう師（以下、あはき師）が医療連携を行っていく上で、病院等の医療関係者が患者にどのような視点で関わっているのかを理解する必要がある。そこで、整形外科医が普段どのような視点で診察を行っているかを理解し、はき臨床に応用できる診察法を学んでいくために、学園付属の呉竹メディカルクリニックの医師に整形外科診断のポイントを教授していただく。
授業の一般目標 (GIO)	あはき師が医療連携を行っていくために、整形外科の診察法を理解するとともに、その評価方法についても学習する。

【担当教員から】

教科書	特に指定しない。
参考書	1. 「臨床医学各論」；東洋療法学校協会編, 医歯薬出版(株)
成績評価基準	シラバスで明示した到達目標を達成しているかを、年間の定期試験で評価する。
成績評価方法	成績評価の基準と算定方法（評価割合：％） 期末(到達目標達成確認)試験：100％
履修の条件 留意点	期末(到達目標達成確認)試験の評価を合計して60%以上により履修とする。この科目は選択科目・整形外科学の単位として認定されます。
担当教員	★授業時間外に必要な学習内容（担当者からのメッセージ）
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義は3時限目(13:30~15:00)で行われます。 2. 西洋医学における診断に至るまでの過程を理解してほしい。 3. 診断学の基礎となる科目であるため、授業の予習・復習をして授業に臨むなど、積極的な学習姿勢が望まれます。ノートを取るだけでなく、話をよく聞くこと。 4. 試験は講義内容より出題します。是非理解してもらいたい箇所は講義中にお話ししながら進めます。
オフィスアワー	授業開講日の12:45~13:00 3F教員室

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SBOs)	講義形態
2期	1	総論	整形外科の概要が理解できる。	講義
	2	画像診断の進め方① X線	画像診断の進め方が理解できる。 X線所見による診断の進め方が理解できる。	講義
	3	画像診断の進め方② MRI・CT・各種撮影法	MRI・CT・各種撮影法による診断の進め方が理解できる。	講義
	4	頸椎疾患①	頸椎疾患の理学的所見を中心に診察の進め方が理解できる。	講義
	5	頸椎疾患②	頸椎疾患の西洋医学的治療方法が理解できる。	講義
	6	肩関節疾患①	肩関節疾患の理学的所見を中心に診察の進め方が理解できる。 肩関節疾患の西洋医学的治療方法が理解できる。	講義
	7	肩関節疾患②		講義
	8	肩関節疾患③		講義
	9	上肢の疾患	上肢の疾患の理学的所見を中心に診察の進め方が理解できる。 上肢の疾患の西洋医学的治療方法が理解できる。	講義
	10	上肢の末梢神経障害	上肢の末梢神経障害の理学的所見を中心に診察の進め方が理解できる。 上肢の末梢神経障害の西洋医学的治療方法が理解できる。	講義
	11	期末(到達目標達成確認)試験		試験
	12	期末試験の解説・解答 まとめ		講義
3期	13	腰椎疾患①	腰椎疾患の理学的所見を中心に診察の進め方が理解できる。 腰椎疾患の西洋医学的治療方法が理解できる。	講義
	14	腰椎疾患②		講義
	15	腰椎疾患③		講義
	16	膝関節疾患①	膝関節疾患の理学的所見を中心に診察の進め方が理解できる。	講義
	17	膝関節疾患②	膝関節疾患の西洋医学的治療方法が理解できる。	講義
	18	下肢の疾患	下肢の疾患の理学的所見を中心に診察の進め方が理解できる。 下肢の疾患の西洋医学的治療方法が理解できる。	講義
	19	感染症疾患	感染症疾患の理学的所見を中心に診察の進め方が理解できる。 感染症疾患の西洋医学的治療方法が理解できる。	
	20	スポーツ疾患	スポーツ疾患の理学的所見を中心に診察の進め方が理解できる。 スポーツ疾患の西洋医学的治療方法が理解できる。	講義
	21	高齢者の外傷	高齢者の外傷の理学的所見を中心に診察の進め方が理解できる。 高齢者の外傷の西洋医学的治療方法が理解できる。	講義
	22	多発外傷と難治性骨折	多発外傷と難治性骨折の理学的所見を中心に診察の進め方が理解できる。 多発外傷と難治性骨折の西洋医学的治療方法が理解できる。	講義
	23	期末(到達目標達成確認)試験		試験
	24	期末試験の解説・解答 まとめ		講義